寓意草

全

書僧
50½

門 1 普8
507
巻

宮城県図書館

富意州

ちはやふるいつのを山のおほぞきつらゝ思へば白ゝしえき綿はなとの外形狀
から国ふとゝもへらきの空ゝりやまとのくふる時よあいもしく心まどひす
ほ人ゝもしよ其ゝをふきてかちを山の旅なる岸ゝまれくりのふをへら
きてはをも形くさ乃濱よ波ゝ思ひ那のゝしを水ゝきの末よ坊のゝ
よゝ叫きあつ免てゝゝしるゝさゝれゝ体のよゝ伝ふる事あゝしをく形
うゝを世伝ゝ免りよゝかう外濃風ゝうちをしまれる坊んよゝ句ひと
深よ花の都のゝめゝぬるいゝよゝうお秋よ生れきゝ童謡ゝ礼那者三ゝ
生ゝの意ゝゝしびゝてゝゝ那よゝたゝよ形ゝいひつきゝへゝかゝ原ゝ川の
ゝゝきゝかゝきのゝしびよ生れて春のおゝふゝゝゝのひゝのゝけきあを雲と
のゝゝてあけ形ゝゝるゝいゝを形ゝび秋のゆゝへよゝ三ゝ山ゝ秋ゝきゝぐゝせゝ
道芝のゝゝ露ゝ枝をゝゝりてゝのゝれてゝゝ月ゝゝゝみけゝよゝゝち

鳴門図書

あまりを明しくらしてあり礼時しあらば大内の形の見ともなりなんと
夜いまだ枕さらを初ぶひるいあるきこれいひをもひ物いわぎしもな
夢のうちしてゆくも形く人の心の地くとゑるくうらざるしうき世をおのぶ
山のげよりちらくひ名まをうら免しきものみぞ多め法よりひさくうら
花ゑかくぶきりまつげても行れと思ひうらう草むさぬ真砂ちよひり
じをうぶ常世のうわよ玉づさも法て形ましふらう西さく水べてに釣するあま
うと形ぶ雑波の芦のおもうきふしもかくてるんん今いかくするもこ形る
身のあしをまてぬよ中よ行ともうる所も形くうりの宿うさくさぐめぢも
ぐもをぢうう水うむ口ぢもせばをるよ常の所ら外れば一ものとあさくむうの人
おかしたおぢきこも形れば志よよあるまさんぢぶもも形しぬようそぶき
月よ吟よひ才をば文車の志こよ世法ぶもしだいちうよ月法ひてめうる人え
ぬさ重いの人を友とくくよをよも思ぬうらん人さぶしきこも形りんぶ

うれいしきさもも形しぬ富うも義しかうぶ法しきもいさぶかくてうき
世こいけ水のふぢりよしてる蓮ぶのいひのを比思いるまよ玉ゆりをうう夕べの
露こ消うせるんも以みぢうロをしかうくれさうとて人のいひをふてび根
掘ひ男ぶを迷てんもいをいの形きワさ形ありむうしかうちいをよさくれぶ
志ぶうよ今更いぶきこもあしぶぢくめのまくのきくしをかしぢるを
迂経ぶおしきを心ゆくを形をついぶ形くぶ男ひいぢるあよ初ぢ免ぶうちあう
暁のあきぢいくぶきかれまつ免まちんみをいただぢうよ形法ともあいれと
みぢふ人をそるうう免夜ぶをうの人ぶうくよるうぶやいあくかしを妻のさえ
ぢをうれいいねしきるうぶしのをむもてうきあり免ふうう

盛元文六年辛酉即寛保元年

人の心もむつましき六のをぢおをとしいう形る年ぢやあうを重まの春の初をみ
形れしぢくつきの所をあをちぶてあををあのしるくいぬ法ぢよ地いき身の形
志も志く川の開ぢ元て恨もむ初ようちぢよ地くまさおようりんよ中のうづき

ざうりうきめにあふくまの河のわたりに宿れば人めしのぶの山もめなれに来るにおよび
えまうる人の心もあらきにけるかれど猶豫らひ給ふ物から那とし侍りけるに元も
いまぬをうもさえはりてゆくつらも形しうち見はむさきも櫻らの花などひと
よりに咲乱ひぬる年より雪の消侍りて春なかばすぎて冬寒ければ花も
さかぬなるべしけまは此国の人は春の花をば志らぬ形なるべしよりいつるとゐる
てあるじおいへ那るところにてかかせて出なかあしくくつ形いくちなる神なりさうつと
ゐないの那侍さえばゆりもきのわのそこに山へ那れど越ず形をぬきゐたるおもとのもは
そなくべすら方くち形乃神な侍とてむしなる神すなふ持とおかくていでく
らうへさんよふていでぬれば古きをのしくち形までへんちうとて道びきて竹むら
の中をいりぬされどよそ思ひていづれむしるや神なるらへはされるんとて那かの形
かいとよくみえすとさしてくちるを志らさ侍にかそとてわらひつ
事無に心なくひてせぬ人をなしまて拝簡なき人といふを此国にては人をなめて

ゐうけんなしの人といふ其人のするわざは驚きしが心にそのうまずとゐる心なるべし
○こちおくの山々らさきのなりに雪のかわりるありと都まで或人のかたりし信夫とよ称
沢のあいひに東がけとてきくは南十里ありけるきてる山あり山の形の家のやう
なれば扇がた山ともいへりふじといふ峯あり右のぶなりければ駿河形ふじおい山
にいさかもいひてそ此峯の東のかたに卯月ばかり雪の村きえてるをさきれのかたち
ちうるか曹らなりさき形いちひさくて右にうつりをおとろるは驚きくてむくさま
なりうらむ耶め口つめまでそ耶いかりさと人はうさきれがくと形んいふようらいつら
ぞうりしてかりしくきえうせぬ
○二本松山のきくみは其称なき入道とて大なるわらしの形りに残る雪あり此わらし
ゐなりのこかれも旦人のけ称おかくれ名侍まうり
○伊達の大きなる山あり国こうりけといふ麓にふるく人のわざあり西城に太郎がなり
なるとるん大かわらりに膝うけ松といふ松あり源のよしけいの軍につらて此木に膝

みて待るゐ〜おの名形うとゞ伴ある辛いきてうんとて伴ふ人ひとり三人〜ていき
うり長ハやさばうてハひるえだりてハ廿ひろ半るんを仕るいきふ人の面形も
仕けてう人〜おらうえんとふえうまぬとえバあ形ちよこひろ丙〜バ人〜のき〜
ぶらう形〜人ぶうよおうよおめとうす

ぶたうよ腸うも手松さきてうんであらくづ形くてのてろ〜面げつ
いけもも〜きうみとれるう形仏うもかくよおうんにたあ〜まわ〜しりもとうとうよう
ちよえこびぬいとえう〜〜りう

すぶを石と云石あり重いうう形る石のるうよえぶ〜るる面るて水のたゆうるひとう
ある時もひとところん武蔵坊が世石の水よすきもうて名利を付うとぞわ〜しうけ
松のうん形ミ十町ばうりみあり

むう〜〜ふうう時れ富うまふふて着〜ぶ今おうし〜き時れ貧きふ〜〜ぶひて
むさぶ〜〜ぶ都のうあうをすうくひなのうふ〜〜よやけれぬの野山よかわ〜して鳥

けぶうをのをこうんて祝うをびいぶうこれ国ハ仁部者猶人がたう〜〜石ぶうふを
去京師二十五百里と形んふべる都うハと遠きえびとるれバ無道わざもさ
る形ふ〜〜秋のうえかり人の雁のひ形すてきまうりうをいうふえつとうへバ初
鳥のわ〜〜ふを田面えら〜ら地きるべてよび地うをうくのあるくいのたをつき
てあるを鉄炮とふをのりてまづるをうてるを仕れる飛くりめどうた
ひてうきるを世びふちをいきてをいうれてこちおをひあてくをひま
ふ〜てうらも殺〜いき形うとうて四まとるをいとうをうかうぬあぢきな
きうう人のわざうれて餓うよ不祥えう〜〜四よ

ふりわうよ女ありうひうう〜〜とをうぢりうう〜〜ぶ人数多かうひてまうう
るうあえうよふぶふ〜〜りう世形ハうぬ和〜て田ばるわざもせであうりう
東の都よあり〜〜日但徒ら世の有ようりけうう〜〜とのよ天ぶ下の道形きを世尼
ふ〜〜てうばけうるるをせきうりぬとかきう〜〜えれるふあぢき形〜〜

○南の東の国〳〵よりいたりて野槌精を祭らひてるへさふうてねやまふとうねも
芝たてをとるを道の奥よりねやまふとくつをも出るをたりしをきもバ人よりをさ
きぬ信夫と坂山のほとりに一丈ばかり長七寸程沢よ右近左近などもとなりの槌老
槌ばかりにもてはやす人形〳〵らもんさいんがたふるを人やゆ男ひろん上杉がいへ
のあつたの東の都へ行りてて一人山あひを通るさよ道ちしあるなどうおそくら
えりけるかよのこと服あらのあふひこゆくばきの一かるべらんもれらとこい
ばちい祝とふをとれいとにひるりみくきくつをのるが形をて刀ぬきてきるこ流しつ
名高き槌るれどばけをいるひけきまるで西の国をとゆる事あり因幡国鳥取とふ所よ
坂川彦九郎つとふさもゝひあり名りきごをうゝんよて鉄砲とふをのもうてのべよい
きけの松ばらの中うり人のいできてをうるやとよるりいべつぶもて西行くきつを形り
りふいいへきをよいとまりふてすうりつをかりの切んとるをはうるまつんとふあゝから
ぶきぬをうれもてよとて鉄砲さしいべをべ彫りをふとて手をうべて後ふりうちてき

つてあるこ人のかをよいきていで奴雑ふのあるや形〳〵やとをうてのれとてうちよりて
いまをかゝきをのくき形んるるるひをせんやうきをあれてねうれを出れ入て形為様
をかゝ形をこをべと鳥のをえをとふたうをんやかふををうけつ
いへ人らあくるふをを釜をるうてひをへぬれのりで水をおひぬこゝのをるをあ
ふ内りの名ひをかゝをうつしをて竹ををきをどひておりもふひをうをうてをあげい
つを形をとるをくひてあらぬつきのあゝをもきををこりをおを小松竹ををいけば
草むゝの中うを彦九郎門とふ誰ををへをるをいをへをきをををいをかゝをとをひ
つをの槌のをび名をを老をる槌の化をい古塚槌の詩をもかゝらい雲鬢を変ど
面い粧を変を大形を尾を長を長き紅の裳を形をとををを変をる事をいを是
ハ男を化をれば化をふるひをるをふを面
福島の里い名ぶの郡をあり左右をつを云狩人あり多ゝをををを流をあをの仰り人
あて居を祝ふをもををくかりいたをてくをを大形鳥の田の乃

中おねるとらうくようて鉄炮もてうつをぶのざれがいえてどやと思ふうちにあ
ゝれぬるうい乃なして色いと黒く馬の大きさしてはいさかさけ二夫あるあり一書
ま志ぶぶうしと語りし胡国より大鳥のゝい秋し事史記にも見えたり此鳥うは大鳥
まてきゝ江海の外うち大きたまてるらゝや

○元禄の頃東の都よりぐるよあんざつてふをとゝ人ありたくの舟よりく手
むろうのりて粮つゝてもゝ百人あるりのうちよりの海の外とめるりてきつ日出本の
東五百里半ひとつの国あり其国より三万餘里たつゝ巽方よりきていと大形る国あり
海べてよ人のあとり足の跡ひの〳〵ゐ四五尺ばうあり思へゝ牙のゐ四五丈あるう
もけりんとかすしあゝ井後ちかうゝてまうさく天正のちん仙臺あゝ濱
〳〵死しるひとるゝれきてゝ丹四丈八尺ありしよ形んよあんがいひゝ人ふ
ありやきてうゝ先とゝひき人よもかく大き形るあり時所日本有某大如牛
とゝてうゝれどある事形よりや

○豊のさき前国よりゝ丈が餘りてもゝ二十尋ゝ七十二ひろあり餘あり其下ゝ川
よきしの前き入てひるよむ形ぎのあり西のゝ大形ゝうちゝ国扇ゝ
ひれめきていひまゝ行ゝはじめもむあぎもちゝざうればちのぼく人も形し
四五日ばうありて志ぶゝるをれば孔むあぎうゝ十三間弐尺あるりとゝん

○中川内膳正ゝいへのゝむらから丹波有るうたいの山よりきてゝ梓ゝて十丈の鉄炮
とゝふをあるて志ぬひきていきけ丹巳右の岩のゝごりをゝて志ぬのあゝてぶく
あゝゝ志いてゝ出ゝて九れゝ岩のゝぎ目ゝ大形ゝけばゝあゝこびいでゝ志ぬとつ
いゝぶゝていきゝうあとをしゝひいていきゝてゝれゝ五六町ばうゝいきて日うげゝあゝ
なゝ形ゝ平在所よいぬと形まゝんしゝてもてあゝびて有ゝうせゝうとあいいゝゝ
あるやゝとゝゝうよんゝうゝてゝい形んとゝへで外ゝうゝいゝゝ虎をゝうゝもいゝゝど景
志ぬゝゝれゝく其ゝゝゝうゝや鳴ゝぐきゝゝゝゝゝゝのゝゝれをゝゝゝゝゝゝけゝい
うきけゝゝあゝて出ひゝ志ぬゝをゝ中ゝう部ゝゝいきゝて出れもつゝゝれ
ぬ

よくとてちりのれい年へて猶おるりかしらうり庭の本やで九尺五寸ありしと羽
倉在満がかたり

○福島九郎つ大夫が八のこの切こ形しこ稲こまい五尺ぐらう有しこ形ん

○常陸国すしけと云所こ住り侍寸郡と云けり百姓の家の外こひろいしなる八五
尺八寸のひろ多こ九尺ぐらうあいてい元てぞと侍寸
郡ないい

○うしぶうりはうしきものいあるじゆこ元ぬ坊こいをも衰こ堪こもをとさ
世の中をとやりげこ云きものふり心をも慮むさい歌こといひりん侍りぐり
り志ぶのさとりいたり里こきふりりこそひこちの国こ下つきのちりひ
こ中こ形ゑ九方川を利根こ云月のあるこ夜ふかせり元らし侍ていは
年山のけこミしこ坊ひいで形こ女しこ事ふ多形りりんぐこ元りをぐくまこ
たぐた山こしい水こ下る月をまるこ心紙こいづこまりりん

と出ありまひひ久世さこ御戸の集こてかく形こひこかしきりりり有り
侵ふもいこ稲ちけりをん形さりりかく口こきこ多を図てあんりやをこもも
をんるも涙坊こしをんをいりつりこりをまのさ〈くいでこりり頑り人さ〈で
和名抄常陸国行方郡こ麻生こつきて坂古こあり板古こや
こりこり四五里ぐりり北こ角ここ云里こりりもしまい畑田こりけり畑を角こよ
多りい延喜式の若干畑の畑こて角どの口こやふこかくこ女しい志〈でぐり
ら形こる坊

○地の名こ氏このもしこよい元もこあるくきこりり日向国こ岸破地動こうきて刀工こよ
多り地の名あり久世大和ちり家こ東海林こ手てセウジここ云氏あり刀工こ義

深川清住町仙堂の庫屋敷に東海林某こて倉宇子あり ミホヂと呼ぶ

○出雲国出雲郡出雲村和名抄こ仮名る〈今国人のこうぶいづもの国シユツウン
郡アダカ工村こ云シユのこ云出雲のもドのこ云る〈アダカ工こ云〈で

よくとてちくれい年へて猫おそりかしらうり尾の本さで九尺五寸ありしと羽
倉在満がかたり

○福島九郎つ太夫ぐいへのこの切こ殺しこ祝こまい五尺ぐらう有しこ形ん

○常陸国ちくけと云所こ住る俗十郎と云ける百姓の窓の外こひるいしなる小五
尺八寸のひるこ見てれアアと矢もてけるうこあいてこい云てぞと俗十
郎がいい

○うこぶうりぬりしきものいあるじ山こ云ぬ竹こいしも衰こ増こせをとた
世の中をとやりげこたきものふの心をも魔むこいい歌こといひりん俗ぶうぐり
りを志ぶのさとうりいたの星こきふりうこそひこちの国こ下つきの内ひ
こそ中こ形ん方川を利根とつ月のあるこ夜ふかせう元こ行てい山
年山のつこミーこ坊ひいで歌こ女一事に意形うりんぐこそんの動をいくまこ
たこを山こ小水こ月をあるこ志むれこいづこうこん

こ出あるこひるこ世さこ御戸の某こてかくく形こひこかーきりうう有り
恋
ほかもこ初ちけこをん形さりかくく口ここ名を図てあんぐこやここも
をんるこ涙ぼこしこをんをいつかこりこ食ぎ二日三日くいでこりう頼る人こで
和名抄常陸国行方郡こ麻生こつきて坂古こあり板古こや

○ちこり四五里ぶう北こ角ことつ里ぶうもーしまい畑田こうけり畑こ角こよ
多々い定式の若干畑の畑こそう角どの口こやふこかくこ長ーしい志こであり
ら形るこ

○地の名こ氏このもーこいえもこあるくきこりう日向国こ山岸破地動こうきて卍ここよ
免ぐ地の名あり久世大和ぐ家こ東海林こ手てセうジこうぐ氏あり卍こ義
訓るこ一セうジこ志こで

○出雲国出雲郡出雲村和名抄こ仮名る一今国人のこうぐいづもの国ジュウン
郡アダカ工村こ云シュウの二こ出雲のもドのこ志るこ一アダカ工こ志こで

板古の里に長勝寺と云寺あり山と海雲と云右大將頼朝の創めなり
を相模ちかの時そ本でちいさきものなりてこゝ迄と西と戻と而植うめ
と文治梅と云文治の頃うゑ侍るとうかくいてゝ形ゝとゝ成ながら枝
さにいとをえだりてをそちはふ(蛇)しこゝろ形ん有樹のまあり中納言うつ国歸て
う名あり一垣内ひよりしてゝ所とうして
板古うう六里ばかりと提賀のさとゝ云前方湖を霞の浦と云西を常陸
の国筑城郡うう東をかめのかしを南をつゝ花散うう海上の郡まあをあを海
ばゝよ入う大舟のとゝうの浦と云なし当浦の事まうん今をかしまとうれのあひまハ
島ゝ多(サハ)ありいでゝ滑艇なるぬいとうふで当しまゝ
東照神君の東の都へ入ませし時うう生ういでしと形ん
鹿島ハ青海原のそうう立うし西と筑波と云郡を南ゝうゝ世界ゝうあり
うし西ゝ筑波の山と云又しハ同し国とそうあううゝあううゝむふるで筑波

山のうし西よりあるよりあるゝ
かゝうゝ浦の島ゝ多ハ櫂さはよりあうゝからとゝふいをの作ゝ人ゝ島人のいひうう
ゝらの腹ようとゝふとのあり世ををゝと有と形ん又鱟も地名(鳥)うゝ千とゝふ
島よ成ゝかうゝいふにまらゝふゝるもあゝ
のゝうゝ東を麻績(ヲミガハ)河の浦と鱟(エビ)と云ハをゝうゝ形月七の日ハ天ひの人の面を
うゝのゝびゝうふを人ゝあつゝうゝて取ゝ海ゝうの国ゝ神の月とゝそのゝとゝふぬきの
めぬ(妻迎)のゝと云ふ言ゝきとゝふきゝふもゝる檀あつゝうゝぬいつもゝ国ゝハ為賊(視)と云
いをゝ千よひゝ音ゝ観世音の手判ゝうゝ行ゝゝあ事ゝあ其日ゝう前ゝハ言ん
坊(音)ん堂の下三里ばかりうゝあつゝうゝる其日ゝう後ゝハ言ん坊ん堂の前ゝあり
廿日ばんうう又下ゝゝゝる甲ゝうゝ印のゝう形ゝあゝとゝうゝ言ん坊んゝうゝ廿し
判ゝとゝふゝと松井行者ゝ出雲ゝうゝきゝすゝうし
鹿島の南ゝ息樓明神のやし後ゝあゝ前ゝ小見川ゝ西ゝ印ひて湖ゝとゝうし

乃青海原まで行く六里ばかり潮のさしひあり其中は大形なる石のうめ(甕)ありこれは中に清水せかるいふ形なる石を初め人形しるみのげとゝ石そなはるなるやあらん享保の頃はんぐとゝ云国ゝうゝ石を入て真清水を形なる石のこと(甕)

と東の堺ぎきくとまつわりうゝも(薄)志(白)ろく黒き縄の形なるまでなる石

ゝもぐゝ元もあるき石と共石知る人なし石川宮内とゝ人のみをうてざるこのげと

云石よりあんとゝ云いしやありと地名せどなり地のおい(家)ゝ(一)ゝ(抱)ゝ形をとゝ

ゝせくゝ石りつくゝくゝ地名せくゝゝゝせのふゝりゝ地名ぐ石まゝゝ名をたゞむ

ざゝゝゝ我国の中ゝと世石(宰)やありとて国くゝのみゝゝもゝゝ地名せくゝあ形ゝゝも

とゝゝひぬ伊豆の大島ゝゝとゝてきりぬ

石の中ゝいきゝゝいゝのゝ事ある長崎の佐ゝさし名人のゝゝゝ世年ゝゝゝ

いつころ紅毛人の長崎ゝゝ奉(フナダチ)船するとてやどのあるじよびて庭のゝゝ(指)ゝ

水どゝゝゝゝゝゝ形なる石をゝゝさしてゝゝれ得ゝせよとゝふゝゝやゝゝ事ゝゝゝ

ゝよるゝうよゝゝゝびてこゝ新五面ゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ志(代)ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

形ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

納ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

年ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

千年ふるといへども（更）（千歳）石の中の奥をあさるゆふなゆふなをれば人もゐ形ば
命を延まかくと命をあらうするゆゑ世石の外はあしきを見るもていきて坊きと
よまんだうぎろるきめるくみを書ぶたるよあるをたゞ日の本のよゝ書ア〳〵ありと
いふ石のうんやうこひまひびらんだをくてくていまぬ世とめでてい享保のを和外
記大久保忠清がいへすてきくぬ

○延享はるゝ（代）矢下つふさ他原とふ所よもどうぬ人のきてたやしきものくてろ
伊ろこのゞ行筑波山の麓ろ人のうろ伊ろ去歳（コゾ）の八ばちともおき人ろて素く
夜ろ石ろんとて見て其中の一つをうひろんとふあ伊しの坊き形ろばうんん
我子の山いきぬれいゆんを待てうんとふ為（代）よはあるねー西あるくんう伊石ひ
ちをたゞくもてうんてふれいつろ形ありかくく伊くゞるを和山よ入ろてき形よし
久伊さよ必紀させうと考りてふてうはいぬ子の伊ろれがくとかれればゆ名ありて
行（欲）りをくめさあ〳〵ばあ〳〵ひ（三）てんとてあ〳〵ひつ土のふ行ろればあつき偽もて洗ぬとをろ

井へて二人のうり書てもていうんとふとろいでるあてふ形ゞれき効きて口をしき
わざう形偽そあ〳〵ひてればうう形しとふわるし坊やもなびきてあるうふ法
ちよ伊ろれてれきそあ〳〵ひつあ〳〵ひてあろ形き事やあるとろてろれゞ石のよし
をろくぬうろ毎され思ふのあわるゝ東の都ろきて行ちうき隈ろ坊石
のろ伊ろまねびてう形ろちろくまゞひめゞてくあ〳〵世をろうをえてろ世中よ
いをあり偽ものあ〳〵ひつれば考ろてろうてをうてをうてうちろりぬあるき奥の考よ
まるぶ姉ろつ世てろ加ふ書ありしもゐろて玄長崎の物借ろとあひろ

○信夫山（の）もとをわるうんがをくゞ形石の四尺あるりありて青黒きよ三尺ばろう形ろ
いをのをきてをろうばてろ舞ろふ奥ろ（似）てい元こあるくあを色とめ世ろうも
いきてろ奥ろして板よのせてろ世ろよ石よつきてあり其奥も石ゝ形ろ福島の孫右
衛門と云ろもの以よ坊きしを原新六郎と云人の伝代（検見）居ろてけをうきてろ考ろ
坊ゞきをよ書んとをろうてのゞ行ろうき

○細井摠八郎と云人駿河の国城のあもりよりいきてさやのあと一尺あまり形の志き石よ
りとりたるくおゝ一孫よ正の字は八分よあるをひろひて重てまたるうう夫うう前よ蔵
の石よるうとうをもれうう唐淺もまはあてうとうゝ

○さゝの志りよ名づるやの炉の中より出づるを火の出る所あり炉のもとゝみなり竹筒
とて出きて角のくちよりあとうたゝしぬるもの其おうもえいつあふきもてはあげて伸ぬるゞ
き竹の中をとおしくたきゝ横まくゝいくくよりひとるしあうのゝ物いあけて
家のわるゝしの名も星の名もまうすわくうとくさうつよ石うう油のもく所あり他う
如く成よ水の面よきゝしの石うう油のもく所あり他う
ゝ不のいたる山あうとうはれなく會津の山のかうう有久つうゝ入梅の日うう庭
の水のもくもあうはるゝしをゝ利たるつうとやいひゝ

○こゝはもあうよ面つうとてさ形へと田面よ切き母う形う法師の影のもはをあ
るはきゝうとうもゝ七つうとゝいうゝ出うけきせゝさをとあはちゝしうとうくゝひて

も侍うぬゝしゝ山のこけよ形へ

○紙後川のかとうよすうひいる人の兎をこよ入うとうひもう紙のうう後月のあうき初のきよ
こけ出きくれゝゝ形こうりぬ者て河の面をもしまさうぬこよ云あとるゝしあういて
うをきゝ月よ面へゝ不の自由よるうていうみちゝきこのめうりもいゝて水の面をも
しるゝ形へ

○黄はゝ玉よかうどうつよ山あう山ゝとよもむ人ゝ谷の石をたきゝよゝて物をたくむのし
ち形うゝすのきはまうれゝすゝ石よるうとうゝ土をもたくよくるゝ面ゝ形へ下
つふゝさもはちをあく所あう志ゝ初の杉ゝとゝふ

○面まうゝ人ゝ物をゝるをたくゝと云鳥をたくゝをたくゝとゝ
ゝたくゝとゝふゝう韓氏ゝ醫通ゝとゝふゝまゝ焼飯をいひを者る事ゝとて唐詩の瓶
中有酢堪焼米とゝふ句を引う嗚嗅焼藥声とゝふ句も有るゝ焼藥もく
ちうゝと奥事ゝおゝしゝ形ゝゝてよ初ゝと水ゝとゝ面よ入ゝりうをゝかゝくゝいゝをた

ことゝふ形んなたち人の妻くとなりぬれば醫道の焼飯のことを論ぜし時大森
元孝といふ人の林間温酒焼黄葉といふ句もあるを考ふるにこれは黄葉
を薪とするにはあらで薪にすべき葉なるべし
人の心はおなじ形かたちのかはるにつけても心は同じからぬなるべし村井新九郎といひし
人はきはめて誠なる人にて其人のいへることは雷のおちしを使ふてとひ侍りければわが家にて生れし
ちいさき時のことの雷おちしところぞの父をば謙道法師といふ
ありしありさまなりけり何とかそうて廁の内にありてのちに旅にいでける
つかやのかはやに入るとき雷おちければあれは血氣の盛りなればくるしきも人なきしく
いきをひありしに其のちは常ならで身にそひてさまざまにいたみければかたちく
ちひさきと云ひてこれはくそをのみてなほいきかひありとかいひたひぬ
こおもてうはずの父のたまひこうなりぞのちはいつしくいひきひとゝなりたり享保十五年庚戌の
とし五月すゑの三日身まかりぬるひはふかしくいふ人くのひ

きすりくればたびくに床より出て跳坐してあしらひのへばあつしれ妻まへばふし形
うらといへばいきてるめしきわざせずいまし給ぬ日になりておやをとうしるひ侍らん
やとて跳坐し形かはりかくれたまひぬ
信夫の坊とによ福沢より出ちぶきさてる人ありけり出由めるまでいきたりしはげしく妻
ひくいゝき人なりけり八十ぞありて志ぬめるとてこゝ念をとてゝ形きさけぶるがかくや
なと人のいへぞふつきのやうに侍らぬられあうべはひとのてるわざしらいうかつりなる
つまれて故郷にうへるんをむ形しくやを志ぬめるその口をしよそてぞなきになきし
みけり
但馬ち石黒易治その時は九兵衛なりし侍ひまかりしよ経つのたとかつてひろその
よみふとのをばな中上様を病座候とかく事はいむべきなりうへさま御坐とはべくと
戸田うねべのかみがいひし家内安康様かうんも同じ法べし鐘の銘も出るひはいづとな
に心形くられば色をとへかまちをあらなむし強をはり出様よしるしてこまれ

をぐるまとそぬうづきぬ後ふうよ語るし車のまづ西うし偶良茶謙譲とふ也
をゐ而のくべよ常よりけはきし人多りり
○いたづら星よ東條かくいとふ人あうあやぶみたるしむ人々とうてひるとき
うとあるとよみうりこゑをひきくしてしてよいひぐうき車の侍とふいうあるとへいこよ
頃東鑑とうれいがりしたよめしも実よ誤反の意ありげよ侍るとワあうくくいろり
長勝寺のううてん和尚もううとけぬ人とうふと侍るけうを形でいきぐりりひ
そひかくいがいきて物ぐうし侍りりつついで大石の陽りびまるとてあつうりれいがら
のものもてたうとてあしのぬるびよいふさきてうりぬるかあつくてゆけたぐれうと和尚
のううりれいがくぶきつきてうりりりたるあしく又いきてやあきそその物ぐうり
ううぐへさぶしふかうのものいさきたんうり水うゆたんそよの内ぐしいうかして
さやりうあひや有しとふぶしきとふさらぶれの物ぐうとふへで和尚るな
きをと場をきふくふとていくうちてうりぬ

○このかくいる蛙を地をれくやよかてふえもきりりりある時行ききよ蟾蜍のまひ
いてくれいこ三間ぶうう飛さうりくく形の雛口けくつろげてやないたかくいがきふ
をあくくやとて矢声してさけびつあげいきぬ
戸田宗世正がいのこまへこと地を間人あうりり黄のを糸ゆふさう親しき人こと物
がうれしてゆうう中よをてしき友ぐうきのいもドの形まひりをるげてをよへこそ
地と後かしくすぐとひていきうえぬくすう形でてをよくをうりりりを形くをうて
蛇とあてをえちるげくう人のいいきていいかしくしかるとて人中をそのうきせつう
べかくそうちるくしてをまるんとを書ふむもこをるあげるもきうすちくむりふのひの
人間をおち人とあきのちうくいきてたくうりんとて水をちきりているせつ夕月夜
おもるれいさにだちてのぢよいでくまちりるうよきのこるかくきくてちぎ
をりおくに四よくくうりふくさんとてかくを形ぬきるちて書てりりりあれいこれすて
まありりきうづとてあうき仏字のの間をきへこの五尺ぐうり形くをゆひつけてやりり

ぞくかまくてむつへい臆病のいまつくきこう形ていひつぬきをちてろくこなを考りへぞな
ふりてたぶがけよるぎぬぬきこ形しとて世へいへやぞ家ぎ入てやこ出ぞ友だらの
きこ出ぞてけあつこりやいこげこ出きりこても考形んとて思ひさごめころがへこ蛇
を見て逃おどひ出ぞこ形ろこひつ
ひまち人こ古とべろこ云不こを考ことふ青柳こふ男こ建春こふくこ醫こ
きり里人ろむこめのやふこづらふこてお移きりんいきぬ十七八才るれこあ
初ちの氣あこわづふりうろ考この色こんこいこ色こうちあろ考こてもよこい
ぞころり世やろたへろこ考こんこのこまこ行世こいもかんこせま
ぼれこせもぼいろわかこぶけこ考こ引まろここうちあこせ世ひ移ぼぞこ世ぬ
くここ一こ考べき事こ形くこてうへこ了ぬ
東の都の人のかうこ形こふこを如世分為ぞこ考こ世ぬこ世ぬ世ぬ
れこをふこをこよ世国わころこ世ぬこ世ぬ世ぬこ世ぬ語脚ぬこ考ん〳〵まなこふ

ものこ薩方の国の人こものふ踊ぬかこたりこをこふたくいよくころきものの
なりこごこいこいこごうこぶく伝ろこごこいこ移ふいぞこの国の人こかんまの形
いこふぶこよあうなつ〳〵こくこかんまり形いあこうるくこきこせかんまりない
あこふいう形る意こいふ人こ考ここ
織田義信ちがいへこ大門虎こ脚こ云ちここひあろこふいきここようげるる名
これいいうこをたきくいうめ一きこ名ぶこるこ三月こ月ぞろ世ぬ
めこ一世上のこけき名こあ一ここ大門バチギこ名のろあぶちぎこふ名
のいぶここけく伝へんこころこいろこれぞこいへぶろこいづこまけきこいこ移
ど又形くこけき名ろこここ考んちびぬ
松下尊脚いここけきものこふ之伊賀ちこ形ぶれこ里くこ田ぶ甚九郎こふ人の
いぶけかここい松下がひこ形こよこくこるひこここたなころ感じ伝ろ
う形り人ろ心元ぞこ人ぞ栗の利のこけきころ思ひころぬこいひころ

近藤某と云人あり。たゞ[illegible]龍右衛門と名のりを小笠原平太夫と云人のきゝ
あるいたゞし髮のうち右形あり。しかるに六月ごろよりにしまぬ
いつくよりかゝりぬるとゝ。龍は靈物なれば人間の德を形くて龍を見て名
とりたるこの蟲を生捕とるべしとゝ。いとゞ車ぐるまもいひ
あるべし。

恵仲といふ禪僧あり。德ある人にて人々あがめうやまひぬ中山宝雲寺が
ひろく法の事ありて布施をばいとゞ[illegible]ぶきをもかぶり
よあさんかりて[illegible]ものゝ[illegible]たさんとも[illegible]ものゝ[illegible]たさんとも[illegible]
もて形をあらせ南無阿弥陀佛とぬりづきぬ恵仲がもとゝ[illegible]
とてゝ[illegible]

鉈子の黑い下絵の図海上の郡[illegible]ありひの本の東のほとりにありそはゝ黑き
白きいろまだらなりさるりて東は漫々たる青う形づくゝ並下せばそこにも形くゝ
とりもるゝ大石えせんが窟などゝ所ありむかしいぬあとゝあるをとゝ海
よりもづゝて外ありゝ山を形ぎきてゝ石の上にるきゝ大不えこゝにあん
畜生道よりこゝ心ちゝそせめ外川といふ所ありたゝ紀伊の国の人のゝあつまりゝ
男ぶりありてをゝ形いなゝ海人のいをとりめとりかひ[illegible]鎌倉の海
右大臣実朝公の常うのぶと形とよゝしも場ひあいせぬとゝ外川の石をまれて琉
珀さはよりうゝ多つもるゝ椰子のあいをゝ流もゝ[illegible]ゝ椰子
いたれり国ゝるゝ鉈子来うゝ[illegible]
るゝ鹿島の浦ゝはおさぶのゝありていもゝ形し世浦ゝ種のこえち島のあゝは長き
糸ゝ形をてあをゝ形づゝをゝ元ゝ鶴を[illegible]たゝ海をもてゝうゝ
ぶちどゝうゝんとてきゝをあゝのみもてゝりもとゝ海の列ゝゝゝゝ
らぞ国のあるゝぞ[illegible]ゝ鉈子の川口はあ形ゝ[illegible]舟よいぶ

とふ舟あり仲麿は五十里ばかりいきいでてきみをとふにいそのつることを思ひし不乃
唐のひとふくるれより東には形ど詩をて大海の潮の跡ど詩なあられ入ぬいとをやくて
舟も人もひいらきぬもしど詩の中をもひいきらるればかう事をえがたくふねし
中納言克国卿鷹鳥のきる国の人をてつくの舟作らしせを共のかし思しわよう
東へいえ乃して吹らしを形ん
大なえの石をこちの奥のたけは花さく山とたし松のひさ海のちく百里斗あり
乳ちいひけりのみしをも形山といふ山ありあり木さまさまの山ちて草も形くきなかし
ぐに不毛沙漠の地ともいふべし其処てうちにあをはかりて雨ありある人のこの序
作きてこれを打むかしの胡の国之青塚はまつりきうらんの心の形ありといひし いづ
ら事なぞ
此中にぬこは鬼子といふことをうきあるぞいとたびしき人を形りておもしくかり
あれはその子形りもど兜いまはのをし一のあらしく上にさびしき つはもの形く

そなたよ作ちやうに形し ひづめ花柳のちまたにむかいて口鄭衛のことをいはぬぞ
あしき衣をきあつまいふひとひて衣食の人といふも人事をなづ朝に日まひそこしき
作をあそり一てひさぞくるもて禍ち十人よいひをさけれく遂つる人ひとくるより七人
め志のぶのさあよ此もむな草むをふるてしもるなれぞか形くおうすこしさるよひあ
てきて夫のなかにし都のてづりをうてあざ作すちありひのきしたて或時にあやし
げ形ることのさまをうり人のかののひある時にはかちいまでかくちみともるひ的ろしきれ
よおうきふしのつつえつきをうのれめのもとにやどりり人のうさをとうとし人の物を物て
そやぶらむでむきおもをで儒にあらぞで禅にあらぞで布のさなりれも心ゆりよう人はよとて
明しゆうふかば人をに形もみぐるひと形いふめるがつひには陸生に形ぞくへて飛非狂
生と印しく見りてもちぬされて親子にさへうされで餓鬼思とぞいふもかし大くろ
此中に富貴とうしなふもののことに形餓鬼思なるるぞしされど才すかうたる人後うら
かん會をききともておときまんとうふ先しからず

河合善三郎といひし人ものかき続けれどいとふつゞかなる人なりけり古人の言葉
などもたゞしき事は非しておぼえずいふなる人とぞやえけるといへば君子のまじ
はりは淡くして水のごとく小人の交は甘くしてあまざけのごとしといへることを今日もひあい
せけりちかき比長尾の某といふ人も語りかはしけるにかれはねむごろなる形なりぬ
酒をにあま酒のごとき交はりをはべるなれば味ゆひあしくなれぬなばかふ
しのいできぬといふ河南新南の先生もきらさぞよそこきこえけるとなめけ
里ば我もさいひもひゆふとわもなかめしぬいとせりしなり

小南源右衛門がいへる饒るといふ人四五十人ばかりよりあつまりてかの時ならさこぬてうち
をんなからぬ色このむを比番五郎といひし人のあさけりてそのかし儒の道を称
ぶときつかさるときも経書をいべるやといふいよいよ志ほしめさばや論語の郷黨
の言葉を此郷黨のへんは孔子の行状をさゝる篇なるぞやとつはりくいべりとらん
いかにぞやといへるあ形めがらいのみをさぶるふさわしめんと入ときは鞠躬如たらい

まことにれざるが如し氣をつさきえ息せざる者に似たりとは侍るぞやといひくれば
ご形さとこゝろひてふしまろびぬ

大岡主税は水上美濃ちが宵て西ざるまて十日が席をたべりけるとき形びく
そのふところさけり香五郎を盃さしければ今一つと志ひしまて幼少の時はさてたしは
たるべけれど近年はふつゝかなるべしといふ香五郎がおもてちて立ぬしが幼少と立
るを三つよつばかりにやなめしき(無礼)おくさいひやうの非をいひしもをかし

冬野といへるは都の人にて舊鳥見爽鳩がつまにて唐やまとのさえいちじく(手)てかきことよ
ふこれはりても筆たしなむとばし物かける志侍りけりいの形をあつらしきつゝくよ
まぬを非して仕給ふしの曹大家名(衛夫人)いふじん我国のせいお納言むらさき式部な
どゝにも及ぬを形りけりこえだがりけりそをとてのとゆるりて獨るとなる
大成元孝がよくいる人(夫)にもこえ侍るんやといひけるければかざるもみえさでをぞれば
かくていらもしもみえをふとのかくれけるとて今さらに恬澹虚無の道をも侍るぞ

虚無寂滅のをしへあらけしきまふといぞをんなの道なきへまどひゆきとたゞし
くいひられでいつも学者なりとてをんなのさゝの事いをんいみなくことをいゞれとそてち
ぬ徇ゐゐ称びし事もの多かり今は世をづれさへなくて
え孝ふとをしをわざとする人なりけるなりきいみてさるがしかり松平大学頭どのへの
うちさむらいの世をりりよびられゞいそぎ出きて脈うちこて出産後にや侍るといへ
で今までこうこてあつかひける人のゞりいきて其事を思ひいでゝいひさこれより
ごさんなどと名にいひぬ世形じ日のものゞたりありわつかさ佐かとふさとに左き
宗伯とふ医者をよいのか流よしといふ人のあるじの世をれをくるしけるあるひ
やまふにきてゝ世わたりのミつ術とて侍るなりてありけるひざもとまつとおもりて
脈みどこ侍りて昨日よりやいざきするをふとふあれなりと云へバ世とんきてごうち
なりと世もなりしとよびけるを形んそてあと世いやうしとあやまりける何事ぞ
いこをいへりける僕人のさけといふいそのきるかをもてきてふくそうなさる

ふさはふとふてやさきくられどひん僧なればやすせまべりぞとぞいふにしおける人の
ねそうといふ廣の丢菜とぞ世もふめ御いここととさけるのあつひをうけいふ島とふ
島あり島人のむとめを人にやりてむこのそうがりしもいよりしと暇おひけるぬ
かどり郡の賤の者は中にひつけるを氷にあふと形んいふあるよしある人いいにあやし
きぬ布をぶこれ失火をとづなすれとよあれバ御上への時に行るこゝろあめり志川の
まもりかれどもちらぞいひあんでいかみつどはなおりせても行つまりても有ちう
小見川とふ所になり橋庄七とふそのこゝろおれが行きをいまんとて人のなやます
くれけるとてあちのとる志のこゝろなきもまつべうくてりぬいづこまでそとひね
るぞと問ひれくるふ所にてまれてとふひけるや生ましどのつかふをぶろしてなそ
長尾の某とて世の忘れぬそのこの台かしらくて人の物ごろ問ては我ものゞかよかく
ぞける庭の花のさかりに中尾でも峯と我とよびて酒のさかたりける思ふどちよう
あひてもとつのとてん文なきたのしびなめり太平の御代の花の都にうちまれて

よぬしまちにましらひめかちのへふときよ簗村のらときにはつかさとるにまかせて
あれなむこの君の御めぐみやうてすひろうひかるをらしとも形なる形なりし
戸田采女正がいへに志すが不なものふさもしひありしにこれ志しびせぬさのこ
ありかり阝とあて両ありてのち上のとこやより使僧ありかりあやみくなひろかまゝ
出てあしらひかりいつも使僧のみづから愚僧とよびいづるを名のりとゆるひとけ
さ両ありて仏そらの道とどろやましかりんとぞふ阝のひかり形え名とてものを
いえざりかれば空もたれてさふへバくらんぎさよみいにもかまきいでくんといひける
られくのこゝがむこは板くら周防ちとて大坂の御城代なりかりかねくのこいせでか
城にありて大坂へ阝りひつかもしかり形物なる十二貫目の玉をいち大筒の鉄炮を
なり使のいるべうや男ひてんつゞかくちへかしら阝しいれなれバくびもよそでいりて
いかぬ者どもぬけぞてふとしをきうをぞ形ならとびもとなかり筒のくちへいりて
ひぢをいりてみることはうのかたが阝のひなあひるんとていかによどもかくぞい

きてこれぞあらぬさ包之お形やとて人くくなかりなるくひけども人くいでさせよ
くなりなる志かなんとてせずかいなぎいかなりたれバあしぎかをもしてかくさる三国一の
志れもの使みしてむちらとけき事のくやしさよとてものがしらの阝もらひなび
出しあげかるの者のこ四五十人ばかりて志称なとては常て此ぞれんかくびらもなく引ぬき
きこれともがきこれがむちらちもせ候きてみえぬともいかのりをが家のこどもな
こあてあきれず西陣さもありめひきを形ひきらふとありなりてまあいなるみへつき
えいてかけバ今まで志りたなまうつかしするをのこのなかかりするて形とるとりて引ぬ者
たれむみとも形をなれでさせて出れそめみ阝れでさする志ふと形にむてあるかな
みてさわりくれバかう志れものりとなりくさとくるかれバみとな形かきあがりなり
ひとしあの者どもたいしぞみさぎかやぞくぎてねかみらへとて底くあつ
松崎小たん門といふ人をさぶらふの唐なりしてまてかりいさがなりて志さらに志そ
き形んとこひ阝りけるを志すしき人の志めてとがられて功成名遂而身退なるく

かゝる心もてきこゆ。さるをいふ形はさもしの形のいふなる名のみぞのこらん
松のふしのいとつよきを硯にせられば墨の色の作らしくらして見ん形なとおくべき
まゝありしへし此思斎は歌よむ事をみるていさゝかしある人なりけりいふ形なる
ふるき事のさまをもとむ事をかゝさる事を形くよんとすべしきものを忍めるま
と形しうなしんばとていふ人もしるしなる色も形しは人をも揃んものゝ作し歌も
をいやしくしるもの有うるとくしておもむきあるくしつゝものをふかくさきめく
よくわきこしむさかりをつゞめてさけをのめども徒酒なるを形く色をこのめども
たゞれたる事形しいとき形さようめぐまれる常はいきるひかりも月のいらちのかい
きられはけき歌なるうとてよせつ

春のけさはいかなりけりひを人とちる廿日の本のくまみありけて
をかしき歌形なれど今年あろうたりぞくにこしてまさらんとしはいつこやかなりん
ゆかしけなりとぞのこせ外記たゞきよみかへりしまゐうらいきめつ卯月十かつ社し

都にすべりてうへ形によるを形り作りいと貴きる人を思ひかけるすべりてまひ
まづひかなに語かくやといひくおしいひかる人のいたりかをうれしくて心ゆかす
たゞ同じ

忍ぶ山志のびて道ふ道はあれど人の心のおくもしられず
と擱うおちて名ぐさみ作りかくかどと形くいひおきれく志のぶのさとは
たどりひかる都まては名をとききし忍ぶ山をわかりてあまられ思ひ作ぶ
作りかと志のびてよふ道はあれど口をときしも世にひ都までかふの才のうへ
をあらはじめいひいふせなる形をいとゆらくてすさけなかりしぞいまや

忍ぶ山奥ぞ志のぶの道なれや人よりてれかねくは志るせし
ともながめてんでつゞみ判廷之が筆にと蔵このかへせしと世もひあはせぬ余つかり
楯つれなくてう形にはかるときなをいまあらん
浮浪の風になりよせ浪みたびおひあふさきるゆかにあかしくるしたる老の梅かとに

あく形なけれども名ばかり水ともいはざれば沢に吟じ嶺にのぼる君ひとをば
原にかきて畑ともにくちのなかを思ひ形なくして水とうけば浪ともにみずからもいは
とこなしかたちをばらひあしさまに形もなく心をば於ぐさらむなにせつかうれぬるは
はてやむるれば狂雞（ウカレドリ）のまがひさなる声そ病鵲（ヤモメカラス）の人をはぐらすも可憎（アナニクシ）のまさ
形れ都をいでて十年ばかりうたよみする道を問ては雛は江のあしきもはれも名
あるそへんには禍（マガ）くしけき伴を招れしかりの庭にかうさへざるめぞある時は禅
刹の精舎に道をかたりある時は桃李のたくらみ別れをとへしむもまことやゆるぎき
のあじはきこえ形んなる思しきれば、そのさすがに喪家の犬ぬとよばれてあれ
とかとある名をおしまぬみちのゆくまでも忘られぬるぞねたしきやあめはちの
おはしまあしゆるもの名を形るものは形しぞなありかくや万世にも名
あるはこぼられぞるうるはしき衣のめぼらしき名あるはめぐれぬゆゑさくらのを
しきの名あるは早くちれぞするまつりめでたき名あるはとはにきらゆれざる花

橘のなつかしき名は、まこと九州のまがしき名あるは非常にさるれどもあり山
をはなれずして静かなる名あり、水はおのづからして形が間に名あり親といづこ人なたと
形はないあしてあぢはひなる名をたてる事はえもや名の名をしるべきは常の名にあら
ず我名もまた常の名にあらざるめりよしや花にのりて知人がしのうなりやも
うられ形ん
忠孝らぶのきみに紅梅の花のりて形をさへなかりける人しよびてさけのと歌よみなり
今大路道三そのかみ道玄なるもの道筑なむとよべりたりしたかがよめる
村のふぶる紅やのそ花にかえて思ひをもちてむかうる代のこと思ひて
あまてかはとめていそぎこなたとひはこせたりきそふひの歌にあえてとふをさき
のふはありとめまで田ぬまに主殿頭が問ひしあやかりまでといひしへけきがはしし
ありて有馬兵庫頭の徳斎やつべつくしとわれしをはふ王とされたれがいさへでかき
住吉でられなといふひとなかへりてまのゐにもかなはずへてへぞまさいんとて帰りぬ

日本紀応神天皇紀崩皇太后為雄裝賀鞆　自注肖此云阿叡

萬葉集第八百枝刺於布流橘玉小貫五月平近美安要奴我小花

咲小家里を

顕昭本古今集七夕歌に人よりあひ人とあひ一七夕の人とさやどるあえも

しそもれ

如此なるあえのこと形つきごも和名抄に橙安倍太知波奈似柚而小者也とあり是ハ

あやうう橘の義なりと安倍太知波奈とあれバあえもうきこそ

かくまてもていきてれどうこと形とよりて人とも花の名なれどさんをたづよみよまむ

き事とと計こえられぬ

たづきよめも又うこよむ事をさりう中の桃の花ざう成須みうに却へ人と

とるたくんまつりてらくよりをるふげうよめるうこ

ものいとなを考るもこれ花もげよめづきをよふのこべよ考ら一

いとこづつ形る人と形りこてよりうしをよをもう考りう今に櫛とちとこひとうぞ

るきこや

飛鳥山に櫻植ゑくうゐさせのひりう道筋に植ゑていーぶきかせのふゞるい

しハあきあげりこえのりいぶきせのひーたり碑のめいに凡曰とふもどありこの

凡の字ハものくあるを形一喜保の頃儀式とふふこを下田師古淺井奉政羽倉

在満に植ゑせくうこまりせうふゞるあづうこ作りう田ぬにあものうこ大島あ

ふこのうこ形で植ゑせで彫りつてに手月を立てりう大嘗祭の中に凡料布とふ

を作りてれも元ようとうぶりう延喜式とうゞ〳〵あいせもどのふこどもにあこあいせ

てあくこに家るりを作りて祝の家るりとてくこをつりう道筋にもつくかりう

をゞていーにきざこぬるあくこにたりうもどのにえづりにつて形んこをうれ

れ今あくこたにりたんりもゞを無りやゞていーにきゞりれてんちう作ハこ

しあふゞとにうれーう

道筋たちのくに人心ひえくまくびてよくけうの人どのやうひぎみもらうおもぐう
あがう坊ふしさきもしひぬ友とそう人さ服元喬太幸純平金花などミ形但徒
が徒形り

あそう山さ東敵山のうし後よあり東敵山ちさ志のぶ社同とうよ考さ形ういけを
志のつぞの他とうをとと他よ山ぎうひぬるをうしちそしひのうこと社名ぞ形
を坊ひあくくぞさよ旅の山をうみ作うる

ちのしちをうへよ多ぶの岡るればうえ形やちるしのえ後の池
そりねの里さ志くやぬどのくまへのありむうひろくふをうぐひさぐやつとうさのい
あそうりねのおちうと形へうよ谷をいでうとのうさうよいつ移かくへんもぞじ
櫻ぐたちぐきて霞がせきあり花の都さいつも春の山ぬしてなるしえんなと
うぎのそしそぐいそしそし江戸川の上形こ高さのうさうかくりうい形へ人のさの
江の水うぐミみく西うげのうらんとゆうしかう日ぐらしのさとそ行うる山の

ぞうよあうきよ日ぐらしくへ人やありして思ひ花うきてきう所ぞし今日
のうさ所よ作さそおつりうとぶ

日ぐらしのかぐい石肥のさ紀前のうのあるえしおあうえれぐしがひぐやのミかぐ持ち
のえのかどうりいえくのうさえうこれぐいきぶ人の落くしぬうりかく
いううこぞ山のしし朝鮮国うう作のひきくうてきて形ぐい社しうるうえ九月む
うさ社さ九月で人さ志形しあそしまうる人さえ形しる

むうしさ山ひの家のまえよ池あうりう池のあるうさよ山を似うて柱い水ぎなよそうる
旭のちしのぞうさえうちもうる人あれば戸なちひさ紀あ形ぞうりうう形う
きうとよかげううつえへぐ人とくちきもちむさくうて人の舟えぐふ三すぐう
ぞ山ぐミ形さうしおさうちうぬ日う節の水ようつうて人やくきき水ううう
きぞかくうぞ功ぐえし立雅垣さぶまうかどのうさる塔のうげのうちのおぞうう
いちがちうしおあうりうさそうの暁うぐかうざうとかきしうんも窓塔あ

いはゞ水やあらんとおもひはべりしに此ひたちの国みきくりて清水といふ山家に
大さき二郎兵衛といふ人の家に宿りけり庭のひんがしに大なる木のもとによひま
なる物ありしかば是を形さかし尋ねるにつゐに国さかひの里にいのちかけよりしが
此ありしのひとりが言形りのやうなる人のつかひのきゝしたる由ありとなん
名水と形りけるにあればひとりいはけるにはくもいさゝかも見るにまあらぬ
形りくだるかにとらへつせぞよくきゝし尋ぬるに深き形り
大崎に家に宿りて冬ごもりはやまのかたりてみしのくまに五六寸ばかりして菱形なる
窓ありける東の障子窓のかげ十四五ばかり尋ねし窓はゆるくつきてかべの切かき
あやしと思ひつゝ見れば窓より二丈斗さりて竹林あり冬日のたゞ日のかげ
之よりむかふ竹のはざまよりもれきたる窓に写りし隙のうちにかべも写し
あり何かしはもじなとつよむべくも形きあるこの人にあまり如何するかまでもあきれ
あさましあやしとおもへど我はしらでさらにかきてこのみもひとへめづらしは

くもあやしくもかきける人の心ざまをみれば利益やあらんといひぬもじなどつたへぬ
人に似あはしくぞ我はかやうにたゞひたすらあやしと思ふかつゝしくかきてたゞ
しるしてあそびのつれづれなるにとて五冊ばかりとりいでぬうはぶくしとて春画なる元といへ
ぬたぐひなれどもうきあつかひもあることまでも形しかへども志ひかししひけるものも
のあらぬをこのかれども
佛像をかくとて蔵の字をかけりがの書二とつかぬぞろの字はたがひつるやとて
又その此字のくびきの字をそこと形かくぞといふそはいくらも其ふもじをもちて月への
おちてさかしやといふかすゞに遠けるをかしけり
此ありける間宮某尋ぬるといひけるもしらぬくさしてうかりてかくこそはじめて形られ
これはそのしるしとされざるあしかりをとりていふに手賀平と進といふものに
かふにおせてありぬるに遠き事まゐるをちがいはおもき形ぞ遠きも心ざら
びて人をよべばおそれをさみもふかなり心をはかりてかけりまづつきそめてなる文ならん

之とて一筆啓上かたげ形く拝見まをしゆとたつるとみうりはなのね、

さくらの里よりきてこの事かたるもしひとりぶみ有る人の地をせずとて小倉春江とつぶ人の箱の中より有うぐ多あるよ以貴

九州達位はと春ごしめてうまる地のし

唐土の人なもかるもを形り茶谷兵庫が春頭のたろう五千石のあ間ドこう形な

やうやとかくひりるもとたるぬ事の地ほうめ世間さくのもはるまげうせてうとく

きとといふ成とのとこ人ぶ城家のさくのこめとうとんいつ地さくのこめとうとう

ていふのでをる

深見新右衛門殿と長崎の澤（ツウ）まて東の都よめされくみの所のあづうう多りて

かきてそ伝りの井上河内守が家よ寿り多と屏風かせてれが雲洞を地い龍

蛇をそ一らせくまくりる月ぞうへくきてうりるへぶのこるを多をつ

くくきとうていそぐくらくくそかきれ人のこ形くん一字もあへべくどこと

きてあくそとてあぬ東坂が行ぞ早く向いざくといひしまを

今村三太夫とぶ人を職屋よくいしきく人こりうこうませくる時ぞとひこと名仕もあぬ（子産）

あ形めばらあぐばよ人のをちくそれいの形くんよしありてかくつあるくるくへば

うぶやよ鳩のりこれバるくんとふきうこうませてるこそびもさくそ名つけたくんめ

まるよ形くんつあぬせうとい鳩のてのもきくぬめ面もよしあるくんとへばたの（兄）

こうこぬくくて仕まるめおいしこめるうう仕けつとふ仕者北りてきここし

松平備前ちいたばくくあく地ごそ。るくん人こりう羽倉在備が名いかくちあるを仕く

がよきとへひりるをきくてよかくん名つあてくべくふを真綿（サネワタ）とぞ仕者りるさく

つちいまりくとふ文字をといひりる中尾照峰がきくて備前ちがひくるのまを

ふあてくひしむるりるよ似つきくうくてるくひつ

常陸の国水戸の北るる古谷ふちとふ所といきて賊のやよ立りる多十七八ぞうう

るむをあのくいい北くんのりうくそくまりうい形のしくみどくを仕くくあぐ

うねつかうとも住まざりしとも見えぬばかり むかしは所とすみける庵もさらに
あれはかれくそれいでてひとへになるはかねびなどやうのものさびれたる黒ぬりの今
まさしく絵め形の今あさぎのはしありけして炉のきはなる所にめぐらしてありたるが
も形すぐさうり茶をくむとて茶巻よりとりいでてされど水なくさびてそのしる
あつひてすれれば白絵きあうりにねびよりて黒きしづくのみながれてたりなどうは
まへもてのこひたれば柱のもとをうづくまりて見るに八十ばかりなるえびのあ
おひかがまたりおむかしやうしあるによりて左右ちと形んいつか形ども左右ちの見え
き上まへはなかれけり志のまへもてかそのこはめとゆへぞやがて下きえ引あげりふ
さぎおめのごおひて茶をとりて出でぬ

うさとの浦にいるとて狩犬ひきてかとあひて所がぞいきけるかうじうれむ
新右衛門といふ人の此の所なりにありうかがひまづ形は柱にかひたまふてやまさとぬ
年へさき涌とおぞうれしかうじのりんう思なりんをものおねうせんとて志うとあ

とぬめて思ひとてまんひて柳のあるあ形ぐりてまねくまでいもの形しさ
るげ形かもちせとてひえやうしとてむぎとゐ志とに庵くのきらくさぬときう
うてふむしするがもちいひとも何とも見るでねがり今とのに拍まりとても
きぬぬかのくれていりておしすに志あへてすをえてけうしたりけりくひ
つべくもあらぬとのなかのうくひけか志ぬもう志ぬるんとて幸ちさらぐひととぬ
なれどきらぞさはひ志やりしとおもへば左手かぎりのくぬくも形つ
をかうかやおとしりきてかへよりかしぬいとあはれなり
左右ちの人のものいふに志りあがりてきまかくの形うさびしのうれげよしがいへの
ことをあまりてをかしきのきこて常陸のものいひはむかしに行やうなりといひつ
かれがいへに十六七なるをのこありけりかきすいてくるかりければあるじの
むすめもうひてかとそ下男の人の見えきわざありとめぐりみそこそゆかげあさもあ
めり形どかくいみど思へりとへばきもあらぞは太鼓庵りしよなどそうりいつ

きてんとていらへ作りなるてまつひつとに中よい世人の形り事の切りうされぐ
〳〵きよあるぐでわさくさのこうんで廿八の都の大伽藍ありり　大きさもおでまして
あるとミぐうりにてうくるまうり愚さまりてぐミもそてうりめべくもあるぐでぐ
ミよりもあるのきくあるの何とのいさあるしとて服元弟ぶとくひりり

加藤洲

かとうもとつふ島よりきて野ぐちミつこぐふ人の家ま者〳〵りよりひ〳〵島人ども
のあつまりて通俗三国志の有りるとよりとよりといひれでよミぬくぶきり〳〵きて
こうんうてうひるぐ〳〵りる人の名ま や伝りんないげまかりあきれぐとと玄素い世国より
してもりぐ〳〵りる所〳〵きりあくきてのの伝りといひし

浮む事ハ鳥ハやまくかくとふありれ在とし圓珠養笑沖がかきりりる百人一
首改観ぬまている鄉の百ちのうこえぐれしゆるりしてくくしくかうぐ
うりもたりのついても色〳〵まりいりりミむえの山の音のうこぐりりと紙じ
はきりる石と伏集石とハりよりくとありぐで若ぐ伝りいさりよいきけるはあり人のも

ちの家の物かきて元色ちとハりりれぐ量ま編とうりぶミしてりりりりもちの
うりるかけまいありきてのふまをひきついでのむつりしきをあざりりミむ後り
山世さの石のうりぬをりりきてうちぐりりれば人のりりもうとてやりぬ世あり
まなま者人ま曲りじりま世ひりあり近むえりけりしが東の都ないきて改観物
の板本ま曲とあてきてりりるりはりつりま事とりりて笑沖がおちの筆まありぬ
あしりりりねりりりてまりりし量ま曲いりて都ま世ひりりてりりかくあんはりつり
形しひりりせりつりりぐりりりり

時ゝあふぬ人のいつとう相れてくもるとさい忘れものゝ忘るべきもよい行きぐゝゆき
さもなんをいとさいと星よりきていらぬぞうねぬうれめよ花されく形ゐぬとて人ゝ
のふ形ゐ井れくゝがさ袋のかぎうふゐるぞ

五十日

もゝふうんつきてさゐゐゐゐめれぬるをあざゐるすゞき事ゝむさしゝゐゐゐん
ゐゐいたしもこけきいろさぎゝ形ゐゐしいゝをゐるゐさ引づきて和田ゐ為ゐ田ゐゐ
ゐゐかゐてゐゐゐど浮ふこそゐらぶべゐれ其所のゐれゐゐいゐ形ゐゐ大形ゐいゐ事ゐ
有久かゐゝ人ゝ考てゝと心祢のゐゐゐきぬものゝと曲井せゐせつゐ評しゐ人間を形ゐ
小見川ゐひとゐゐゐゐゐゐゐ井ゐゐめゝひ土人のゐてかゐ間ゐてゐゐ風のふ
きゐゐゐひゐれゐむゝ袋ゐてつゐゐ帆ゐゐとてゐゐゐのゐゐれゐゐ形ゐゐし
ひゐゐ井ゐゐゐ形ゐゐあゐちゐの入ゐあゐゐきゐゐゐゐゐ見ゐゐ竹むのゐゐ竹ゐゐ
ゐ袋ゐゐとゐゐきゐでゐゐ

ゐゐゐゐゐ所ゐ久奈つゐてゐゐゐゐ形ゐ人ゐゐゐ人ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

喪訪

ゐゐもゐゐゐゐゐゐて伐原ゐゐゐゐゐ三七五右ゐゐつ僧ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

○伊原よいきていハ倉春ハが家ゟ夜どう〻るそのこゝはひさごがかゝらゝよい祢ゟ祢
ゟつぢうへゞてのさうゞをそよゝとあ弟てゝとゝのびゝる廿のこゝてせゟ
とてたゝきぬやをゝねぶゝうれバ口のうちねゞう形ゞゝうゝとゝゝ〻るがかゝゝよ
祢ゟや思ひおりんこゝあゝゞげて水のゟせゝとゝゝをんゟもゝゟかゝと思ひゝ
ゟハゝしゝてあゝゝゟをゝゝくゝゝてきてゟぬあゝゞゞゝくのゝてまゝゟゝゝ
だせバゝゟゝていぬゟゝを又ゝゝあゝけてさゝうゞゞさせゝてゝきゟゞゝゝいひて祢ぬゟ
ゟゟ水ハ祢ゟきてのゝもゝ心ゟゝゝゞゝとゝゝ祢ゝ形ゞゝをゝゝしゝゟ
ゟゟ変化ハゝさゞゟゟ形ゝゝゟゟゟ山ついものゟ形ゝゝゟゝゝゟゟ尾のゝゟゟ化ゝけ
ゟゝゝのゝゟゟゟゝゟゟゟゝゟゟゟ

もこをあくさてかうあのいちのくさぶるおとは出そんしてあげまどひぬ北の国よ
の形きとちゐやきちる人は大形をとせめんばうちまちいえるとふも誠なるべし

○いくさの里なめしひ有名長脊とる人いひ名日ご為ち手とけてうる左近とひひるう
れめるおしふとめうふくかてのちとびひるてさひ祢しゆんとけるらひけ
容人
るめるあきてあうわつきのひあらあわしかんといひめんば人ぎくもるらごたるきよ
吾頻
るきぬさうしあごてくきぬあんなるもをしうと

○世めしひの杉子のゆう形う所ふるしくういとるぶかうあしぶさき形うう田とるあ
ひしくるま板ぶきの上よかしらう祢ゐるゆうよてあうるとハるちしうて右とふきてな
るやもちたさしたんそをぶうあぶうひうしくとふきつ水うちうけもんでしてかく
つう挿ひしくぶらくとけうてうけまとひぬうそうう伝うるる人しくふしまんひて
るしくどもきをとんでまとひぬ

○水誰もをよぶぐき事心常陸の国富田とよ所い霞ヶ浦の北の原さあさの善三

とふるあこけうつて水をよぶぐわざ右ぶざうう舟よのうてむうひ形う島よいき
第の岸よつくとて舟のつとあうたうよあのうて地ち入ぬ水ぶるき人の地ちて人いと
形をとをひあるをよのうれと日光ひひるるもんむやをうんひぶざうるもうのひ
たるぶき水の中をちうぶひてもそいきしの上をうもたぶをちひうひてとあるかあのう
ちへひひうあをゞ形をき形ぶうう形ぶうひて心右ぶびてぶ世ぶび第ぶぶう伝ちく
ちぬをうしうもいあのぎう形うう形うう

○水の中よりのそとひぶをのあううまん人をとうをうくものいひて人をたぶうをもの
河伯
馬
形う豊前の国よちぶい五六十間ばうう上てかちうてうちる河ありうるうてればう
らぶうつぶうあてをゆひうへんとて引をむうをううをとは出ひてううめんぶぶと
ていれいれられくくまくうふ小笠原形のかみが家のうを大つる左右田兵
人あうう伝いとう形うせ川藤助とるひてうてうう藤ぶがそぶ引うぶ先て
をちうひうへんとをうへもせぶぬうちよしうう多ぶうくを右ぶが水の中大

ほとりのうちにとあてふていきてるよ三町ばかり水ぎも形る柳の根よりか
ぎりとをそたゝめばかりあるゝ〳〵ふぐのるりしてうミハ四五すばかりありて庄左衛門家
きいぶしらのきうそをえくつめハねこまんもやうるとかりとか庄左衛門家
ありなるかつこかりかつよかりるぶとて引ぶめたりよきあひりりりちりり
れにのかゝねどてふるどのぶぶりまゝあるてゝ〳〵こぶりゝ〳〵めれば
むるぎ形どのきうよるめしうそぬきぬつゝもゝうでもゝりのされそてき
たるりよきりれく七日ばかりあるみぶきかりしとぶ
武蔵の国河だえりかゝりよきてとふ所ありひくすとそれきすりれあるかゝ川の
きるゝ世河ようりつそのありてうまや人やとりりりかりぶぶ院とふ寺有りてゝの
うまあゝふとて十五六ばかりるをのこりうおと人もあるえぶるそ所のり川
中よのり入りうよりつとをぶりりてるをのこハ地ちてゝそりりりかきかーまてう
まやよりてあゝぐちをのこどもりうおばりるどあれあゝぐとそゝれば
ばりるりるゝ〳〵なるものを尾をてるかゝゝりをきのりくくえハりりしたり
りゝくれでりつをきをてりりるりれくるやめりをれ出して行ってを祈〳〵あるふ
をこりりるりりやきこれせてゝしきばりりてあつりりつやきりりるゝばりゝ
りるきてたるりあつせてをぶりぬ和尚もをりりてありりよあんれりりるたをけて人
とそ人ゝよいのちぶひでしよせあるとてこれも行きを刊のりてのちゝりるゝぶ人をと
りりそりりりをこりるひをゝゝへぶひれりりてりるきけり人ともあんれりりて行ぶてる
りりていきてゝ形りゝれバりるゝ〳〵水よりりりりぶりるあゝゝゝむゝゝりや有りん和尚
のねりる枕〳〵よりるゝりふりをりりりりる地きりりりれりり人馬のうちりる車形りりゝ
護国寺のまゝを地ゝハりおりちりりふりんがゝ形る山をこぶりり地ひゝぶりりゝ安藤
ぶゝりりのりゝぶ形りる所りる垣ゆひりりゝてりりりりてりる水ハ足の甲のかく
きぬぶりりありりりちひさき石のきりるかゝりりりりりりの有をりりりりりぶ
りあつりりてゝぎりてゝりりりぬありひむりりりりりり

二さい成るわらはひとつ所にてかごをすゑてきちあちこゝにてあそびゐるを見るに此ごろ世ごろ行きまどひてあるやうにおくるなるをもて
りて物うて坂やうに世帯もいとあしをそゝりていきぬ里人も坂ひくをそうて
うれしがりすてるをゝにつゝうう有るう垣根よりちのうへうう立すがうう穴の
あるをさいはいやいなんとそ竿もてつきれば家もゆううるれば家をとて老ゆ
らゝかきて水せきあげ元のくちちうくづしてくみんとも老きうに涌いでゝひ
ざうりう老きうよりこゝで見れば元のあきうゝううびゝ出る老うのあるうれ
なるきてそゝわゝいあううう京へ名うち入さうめうろうれもつえうとざうやあうん

西国より関東までくつしのたゝまうつそのたゝをいうふをれものゝぞみのゝき
きてたうあゝとうものをひぢようけてたけびめれバそのあるのきぬ瓶のうゝれば
むぎのいひもちようてこれてゝへと人バのくと大塚庄右まつゝかくろし

ちとせへたんゝきもてくつやきぬきのむけてををゝせバれのうちのゝゆちとを

本草のとあるうせき宿うう東の都へきて作ゝうる木槿田登蔵といへるゝもし
かてうゝせきをとうのたゝのようあむゝうるゝバしありてすゝ人きてゝ作ゝうよ
ひきゝの人もをこしもたゝうぶゝうせんとゝるゝあきんゝうにあきるたきるの
ゝバ坂ひて行ゝうゝうるのまへよ跨躇ゝうちの物さとうしきゝ形ゝうつまぎ
坂行ゝして花すゝつゝゝあるのあゝひようゝれバかゝへるきぬゝうゝゝ形瓶ゝうあ形物
花ゝしとゝびさゝしのゝべさゝれバゝ形人さゝてゝびゝゝゝびもゝながゝれゝゝゝゝゝよあるじ
よびてゝるゝあやゝの事やさゝゝゝふゝゝやゝゝゝゝゝ

世人をあがめうる形ちものこのめりこのめがうるものゝ人ゝをでめい世をそなへ
るりとてたゞ一すぢうしてそれぞれ二すたゞあ形ちをもうるものをどうそや
有りくいしのつぶいとめありそめをしらけれどもそれ〳〵のものもそれ
どもとうもようあるものいるりたぐひもの黒種なるハ此人のようやまをゞり時仮山
のぐはりうもえひをするゞうちくちひさきぶるくありて中に二ぶるう
るるわらのひあり之をうしもでめハうもきうそのを形ち内あり之をとゞん
さだもこのようのものをたゞ井でのうをづのかゝ形ちうのいしのぶづりをづるゝ
きゞめをやかしこくこゝをの形ちたくをうるをよの場をを祈ぶり五色をんを中ち
をうるハとて業をゞうのもじをもかゝるうるいとめをゞをまゞびをしてめをうくて
中をうつぶかりてをの所よりをゞうを色をゞしまをびをれハあれもゝをゞを手をう
よりのかゝをうをいをはのようをゞちるくもゞを手のをつきひをくをいかくゝ
紀伊の九京大夫いめをとあきをゞ成人をゞうをあをきゞ為ゝ天下一をゝふもゝかきを

をかくをかゝるをやをををををうかきをやゝ伝ゝんををゞまゝ日本第一をゝるもゝかきけ
しのゝを面ゝ天下一をゝきををみををゝをふやををきゞけをれハゝをゝふやををゝ一の宮あをよ
をゝ引をををやあゝ人星を色の為をゝをめををををゝ人をゝをををれをもをたをれをもゝくゝをゞ

おゝちゝうゝ大ゝ生宮ゝ天文三十年八月ゝ
天目山をゞをれゝ天正十年六月ゝ未来記をあゝをゝ
をゝおゝちゝのゝうゝ義ゝ隆ゝうゝぶゝ山ゝのゝをゝをゝひゝうゝをゝうゝのゝぶゝ天目山のゝつゝぶゝ手ゝをゝ伝ゝう
未来記をゝを

甲陽軍鑑諸要品をゝふゝをゞぐゝ上総の介ゝが手ゝうゝをゝをゝを国持大将の一ゝ国
ゝと二ゝ国をゝ伝ゝうゝ成ゝ伝ゝくゝふゝうゝをゝれゝつゝきゞむゝをゝをゝうゝをゝ小ゝをゝう元ゝあゝうゝを
伝ゝうゝをれゝばゝうゝをゝぬゝ事ゝをゝふゝこゝれゝけゝつゝをゝうゝの大秘事ゝと伝ゝうゝたゞのゝさゝしゝあゝひゝをゝき
こゝゆゝうゝぞゝをゝ

益知。木香。霍香。

やゝくゝちゝあゝつゝうゝをゝくゝうゝ三色をゝをゝとゝしゝくゝあゝて三ゝたゞびゝゆゝを振ゝぶゝりゝてゝのゝち慶ゝて

○ 共人をあたゝの形ものこのめぐらうもの八丈の人ゝまでめいはなさをあ
るゝとてたゞ一すぢゝうしてもぐハ二すたゞであ形ゝたもうゝうまのなどそや
有ゝんいしのつハこゝめありてあをてしをけれバとゞでとゞんいゝくのものもれ
ぐひとゝもようあるゝあるゝたゞひとゝ黒稚ゝるハ沙人のようやまゞゝ時仮山
のげゝうむえひえゝるゝゝぐゝうゝ〳〵ちひさきゝぐゝ〳〵あゝて中ゝ二ゝぐゝう
るゝわゝらのゝひあゝえゝてゝしゝまゞめハうゝきゝゝえのゝゝう形ゝ内あゝて〳〵ゝるゝゝとゞん
さゝぐゝもゝぶゝうのものゝゝゝゝて井でのゝゝうゝそゞつのゝかゝゝ形ゝゝゝうゝのゝゝゝゝ

のあばもんくのやうふをいやをそれを信玄のとあんひのたでとみんいよ
源氏のうち色とうちとあ一捨金よねぞゝの赤子ともろあ〳〵てうをかくるう
なるゝ
いとゞきとくあるとあいはれたりきとの砒石以人めうみぞくれも考仁秋海棠の
人をたゞをとい花譜よ代りきれ人丸の中風と切ゝをとハ本草新編よゝてきく
の花を枕ありてか痛をさうあしうよ枕ありて切ゝてくるいもの之ゝもも治せをとハ
府志よあ形りこれるゝも考ゝき事さいか〳〵のこせるいとうらあ人木乃伊の
ミヲ人の胡椒ゝ〳〵腹もをのゝもこゝゝもこゝのゝりてゝちゝ考よあるとむりし
長崎の人のゑ有りるとかぞのゝ事多ひしちゝゝ行いみじく杉を行しき毒あるむ
しとゝ考れ秋のゝゝ山見川よいきゝう考セとて十九ゝうりしをのこのりうゝ行ゝ
めそ切きいぞゝ腹のいゝむとてひをむあるゝゝうれぬしめるときちゆちくゝぞせ
ゝるがらうよいゝうるゝきゝぞゝらゞのくゝくむゝきだりてあゝ赤ぞうあざれ
ゝく

ゝゝ三すぞのうゝゆちりめをびゝるゆと一所ありうをうゝゝるきゝぞひりゝい
形ゝ毒やゝひりゝ人ゝ内〳〵ゝゝ考ゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝ
昨日のゆふゝうゝゝげとゝ出をゝあよ入ゝゝゝく出ゝて人ゝ地ゝ行かゝうゝの
てあゝいぞゝうゝゝゝゝゝゝゝ

口をくもらかして走りまはる形のやうなるものえもて出さんめれば走りとうて巻
あぎてきれのみじくきざるるもうるさしきづくるめれば白き巻いでぬ首東の
都にて西禅寺のうしろ行形の草むらの中にて毒出されば此どもを
ものはるる時い足をあらくすて腹をものはなるやうにひきるるる時い足を
たらくしてくびをのぐこれらさえ長勝寺のたうづの下形にあるいこと
河内屋甚右衛門とかあき人のごういきそえ〻やかうらつづくの子人とる者ち
さるもあるいこ形ぬとうと毒出はとに思ひれどもかうとい走ざるさいぎう
みんといるいどよかるる者とあるがれど毒のおどいこるる事あり小見川よりきる
時あるうしるをんなの毒出のいでさもしこれるるせとて行もて出さんれで毒え
きしるる行ようきるひあるるよ出きるるくるこびきて行ようれば長ようるるよう
いミどく出をえしき出るあるうとそるるるるしてうるぬ東の都ようれんしとかるるる
神の北南ようにたるるるるる山あひの井るるるるるどいたるるさらんとぞるるどくて長州

のがるいきてう毒出の事ひとり〻人さるかてひぬ人のいるるをこうふものあるるかて
伝あるこ出こよるん都ようをさ形きく人もるせばとくいひれかしとふるがて毒えかき
るいひるるぬるいミどく出をえしき出るあるう

○そうこのいとふ形るる下田もんるるがむつるるつづるうる時人るるるやあーや祇ぶ
る事このるうかぞいんるいのよういさむもこもきぶるるひとひさどのとるきぎるるるじや
のるるるかぎるていくをるうしるるうるとるとちるうて弱ぎるめるるくるちてみくきるるるる
とふるるあげるるるひているぬ口るるるるきるるるる

[illegible]

○むかしハ佛ゝ[illegible]人を選びきらしー今ハ[illegible]たうのうつくしきものゝ形れを

○ひとひとをくてう形ハぬものいくひもよこれもあしとてかゝしひ[illegible]ぞらよ中ゝ

いきるいけるあひだハ世のづうたるとのゝ[illegible]ぞうちつハよの

世のきたうとゝ人ども十年あうをつもたくゝ[illegible]たぐくちぐひのかづりハもそざ

ア[illegible]あとゝ[illegible]のちきゝよたるとゝ[illegible]ぞ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ぞもうゝて事形ー きぬかゝれもちぐハ二さゝ[illegible]ぐれぐのふゝもも[illegible]ぐ

あ形ゝしたゝ家とみくゝぬたうゝん人もゝづうゝたる事をゝゝば国をもさ形り民

をせゝぐゝ事ハあくさたぐーこれハ時よあハぬ人ゝさゝまれゝかゝなきゝや人ゝるゝ

べかゝん

○[illegible]あひ制ゝるたるまじきハ常の事ゝ胡椒ゝをゝ[illegible]物ゝ入くゝるひぐこの[illegible]

ア[illegible]ゝれバたハやゝくこゝ成ゝ[illegible]物の[illegible]ゝけゝるをゝ[illegible]ひのーのひゝる[illegible]

[illegible]れバたハゝ成たゝとゝふ鳥の高さハぐ[illegible]よゝてゝゝる[illegible]ゝる草むらゝへミのゝくゝん

ゝつゝてくちぐーをゝるゝせバへミのゝうぐゝのゝを[illegible]ゝづゝよきゝて[illegible]ゝよゝあゝつちをも

ゝゝゝ[illegible]ゝゝゝ[illegible]ぐゝのゝふゝもゝを形ゝハ[illegible]ゝてゝゝをゝぐけぬゝゝこゝと

草のかゝゝゝるかゝゝゝゝゝて柳をゝれハきねぐあゝ落くゝれぬひきゝゝゝ

いゝゝゝゝあゝつひ行ゝゝゝゝゝゝゝれハいゝゝゝゝゝけて[illegible]ゝを孫ハ

ア[illegible]ゝの[illegible]ゝの元の中まゝるゝゝめゝぐゝの切ゝくゝたゝれハ一ゝよゝ中ゝ[illegible]ゝけて草

ゝ形ゝゝゝ形ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝのゝくハ根ハきゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

ぐるり黒ぐろの羽をかさねて丸く形して袖にはわさるゝ手をさゝびゝ
ゝび袖にはぐゝして四五尺ばかりうるを四五十づゝうるとゝふ
○ゆるひろものかひこの中の糸をとりぬきたる方言集の家と杜鵑のあるゝくの鳥のもよこ
うむるんくの鳥あくいらゝぞこれなどのたりしひるゝまをゝるゝに本草の説と
ふゝつあるゝひがをゝ蛍ふゝ栄の中にいとも宮のをつゝるゝ北むきゝ
ばゝゝゝるゝあはいをゝきすいうまゝゝゝるゝくひをゝもゝかひむをゝうゝゝばいう
ゝて北ひやのゝゝゝゝゝゝゝひてゝゝゝあゝゝゝの時ゝの中ゝきゝ入ちひゝきゝ布
ゝゝひゝ六あゝゝたゝのゝゝゝのゝゝゝ色ゝ同ゝゝゝ布ゝゝゝゝゝゝゝ

きもとは四えん

1

ある時ゝとなく〳〵びてくいきてゝんこそあるまゝぶしられきんどはさされてあるてゝこんたはれうるうりは林の形くといひけるきもふてきぬを人をゝうちのまつのひとそうまやゝ〳〵よりの菊きりのもんをゞけるもゝしびりて東の都まで寄りてもちゝさもけよふふりつゝものゝきりにけてもうのゝ枕〳〵よりてまいりてまいりてまい

ちづこ[illegible]がいとこくそ[illegible]ろれば[illegible]るき事う形[illegible]ちかく[illegible]てくるぶらも
形[illegible]とてちく[illegible]ちぬ

人の心を地面での如[illegible]といか[illegible]も今もうけ[illegible]事かし[illegible]をこをんなろそぶめの
所もかくぞ[illegible]ぶき長さあるみしうきあり[illegible]ふきあり[illegible]そきあり[illegible]ひれきあり[illegible]せぶき
ありたうきあり[illegible]きこもあり人々ふ天地とかく事[illegible]べし海山とたのきもも
きこあり[illegible]れあさき井の[illegible]こさ[illegible]行[illegible]ものもの同しかぶぶか[illegible]浦ぜ[illegible]
ふくらう形[illegible]うの[illegible]形[illegible]所のう[illegible]ちひさく[illegible]ひいで[illegible]もの人[illegible]
しうつまこてそのぶんぶ三すぶ[illegible]のびぬをつと[illegible]形ちめれぶきとひてこいり
ぬかふとあり[illegible]ぞ

ひとちの国地[illegible]とゆふ所よりあひ[illegible]賤[illegible]を辛六とそ[illegible]ぶの[illegible]とあきち[illegible]
が有[illegible]五年よりのたいぶ[illegible]うしてけぶうたんぞみの[illegible]まをそ[illegible]てこつをを
おくる[illegible]ぞぞあり[illegible]むし浅草の[illegible]んぜ[illegible]人の山のうちよ[illegible]ぶ[illegible]ぬい

たぶ[illegible]六人ぶ[illegible]てひ[illegible]有[illegible]松ぶ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]黒あ[illegible]くまぶ[illegible]ち
をかへてゆき[illegible]ふ[illegible]きこ[illegible]形の[illegible]ふ[illegible]かしらの[illegible]いま[illegible]人あ[illegible]たち
くちしぞ[illegible]あ[illegible]れ[illegible]屋のこ[illegible]の形[illegible]ようやを[illegible]

松田孫四郎ふまい松平大蔵め浦ぶ[illegible]ふ支[illegible]あ[illegible]べき所のかくて山ぶきの
ひぎの[illegible]形[illegible]ひぎぶ[illegible]むこぶ七[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]
の[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ孫四郎いとをこ[illegible]しき人ぶ[illegible]江戸川の北のやう[illegible]
ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]ぶ[illegible]

四日五日

九〇さうういつゝ年ゝきて志ゐろ

○うぶゝゝわゝとゝふ人の志ゐろ人さたのゝゝよちひさきたぶあゝて時ゝゝゆゝろ
ひとひあゝがゝゝさ年てあゝきかゝゝ一ゝをゝろゝゝゝゝゝてゝきゝゝつが形ゝゝゝゝとゝん
ゝゝゝゝゝえゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

下谷さぐり谷人の相もあるよち廿四有あるうひちのさくこまの山おいつのよつ
有あるのあり古のあるうある人たこうよ中よめぢらしかるぢ

小笠原信濃守家よせ何くるる人とふ人あり谷あいとくてひとあるよ七十
五星ありきりう笠よ風のあてて吹るさよちぎれるてたりと形人ちの国みさよ云
所よ福地七左衛と云てるるをのこい東の都へいくとてよりよ五年もちいひすしてくひく
いきりう道とるうるあるよのもくいぢりりうこるさまと都よて五年のもちいひくひて
道とくるくでうへてぬ七十八星有りう

大村藤たお門とそやせうれくたあるてきえのこあるうるこちち行事のうるうるとそ不
あるれで考づのめがきうてせい高き人のこちゆくいむうーうりせいさちようてか
ちーとてるこれ事ふるづるしかるるとまめやうよいひりるをるしうり

ひるる一部五来といひ小笠原信濃守うこ人のそき形うちりる人よおえて三角えの鎗
作るひてつきいるるをいるうてども作れもきらざれいむうふ人あり成やうさきり

むるふ人形しと常くるれでめしりるるとるるとめがやりせるるも成えをやよいう形
そでといふ人のあるりるを祈てかしこちけるをかえるるるこうかくいめそのかして
うまでうそ去あひてきよるふ日さぶめそうる人をあつやうひるるいもいの三角えひ
きさげるうしうちりていできるるけをのこいこれ廿さ去黄月ぶううそて
なふかいろあるうるるうあるをひちよりけねるうちりあるりさふづとそうちぬ
うつむるふちりつるふひそあるよかるぐき鎗ふとて人やもてあるそぶるといひ俗を
のちのたのしるるこ形くるるしとそ去ひるるるてそ腹うちてさぶるそ鎗るるていづを
六七角へぐるさと廿りけたれが鎗ぐ考ようちいれるるてもくめてつもんしとすう
ど考げてを縄をてるるくくるるまきてれが人くたるるるるひるるるをれいたるひな
るるひてるるれぬ

るるのそをばるる多人のさるるるまやるひるるけぐるる形くるるるいひのうちよおぶ
ぶるるして黒きひぎるるひるるるのあるるるる形考をるるるるるきれどもうてどさ

けどあり人ゐ度こそいとゝきの箸もてゞ井ばたやもくに井ぬるとをゝ〳〵てれが垣ゐ
あくろうゐこゝきてもゝはるてつきたれがたちゐらそゞ井ぬされば積聚おそ
きゝよいはゐこのきゐゐゐゐとゝとゝ〳〵ろうつきめのくろう萑雍をもろつぶゝ乳ゝさ
ちゐくゝすゝ地ゐゐゐゐ目ゐゐてゐひるゐろうひきゐゐ油をゐれゐたち
所ゐゐるゝあゝと野口ゐつゐぐがゐのゐ〳〵ゝ油をゐぬゐのゐ如ゝてゐゐとゐん
かんゐうあゝとゐふ井人だゐゐ青菓ゐてゐゐきせゐゐまゐゐ面ゐゐゐんといひ
ゝ外科のあゐゐゐむゐあのむつゐゐゐゝ人のゐゐのゐてゐゐゐゐゐゐあせあえし
をゐ作ゐゐてあれゐゐゐゐゐゐゐやゐゐゐゐゐゐゐんゐゐぬれゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
がゐゐゐゐゐゐゐ

いゐゐゐゐむつゐゐゐゐ秋ゐをゐゐゐゐゐゐゐゐゐれゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐを
えゐゐゐゐゐゐをゐゐゐゐゐれゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

のちゝきてきうせたまひんぜんじゝきよせできうゝ土そいでいか国よりきそを
じゝゆゝるりんくゝあゝゝ形ゝぬ儒者るゝしが廿一ゝてゝづゝゝ志よりゝこゝ一城
をもゝゝるぬんばるき壺酒をこゝゝゝ形ゝんや
ゝゝ胎の中よりてゐくこゝゝたのゝゝぐで人よゝ形ゝ事あゝゝゝとゝん地ゝゝゝ
はゝの胎よりゝきゝゝゝるけゝうゝんゝ三ゐゝゝまでハたゞるきいさつ人ゝもて
あゝゝびあめあゝゝんばゝゝふめきゝゝとゝかゝゝよゝゝゝてゝうづゝぬゝたちゝれやゝくち
ぢや何やとゝあゝくゝくゝゝゝのお祢ゝゝくあゝゝびぬ一ゝもゝゝと志ゝゝれゝゝつゝゝよ真寺
ぶゝ引ゝ祢げてゝゝぬゝ形ぶゝみゝゝぬんばゝゝてつゝゝゝづゝゝゝゝゝ地ゝゝゝゝゝゝゝゝ
よゝみてゝゝつゝ手ハひゝよ磨夫ゝゝ磨ゐゝゝゝゝゝゝゝゝ

らんくいづちいぬのうちもちぞ形奉所のおのれ一かるくんと云あくりぶさいと
形しくきこ伝りりこそるとたくめぬ半ちりりこ北をて地ゆりて道のわくく
さきこひくれど人くくあはしの花を蔭り乱ひをみるんしいこねいさご形き人の
ちきりと成こ十年あちりかるこちあるこちなくさるのひありきこりるとかくさ
とそひりんこるこそこまこで伝りりるよちりきちなこやづくくしてあこ一所よを
おひ伝るとつてこるぬくりると九月ごりる四位とまいるしぬこらありくく思ひ
あくをぶんまるこぶあえぬんこるの園中は都しかこり沛を思しこ奥しまん
とそひしかくりりきこに猶さくよりを思ひあるあぬ

流星

かりてふ落のみりりをたんまりてうしこつこりりりのみこのはちち
ぬおりりうくこりりるりおこひ星のりつこりりいぬみりるこれこ月と形こ夜りう
ゆしのひりりこちひりきこちりるちもこるめりくこちちちとここ伊てちこるんこの
星とりりてここびちりぬりこるこ時ちりこ形りこるりつりこれきりりこ天狗とふ星

ようやとのかしの事ハ普合こ出てり日本紀こ天狗星をありつきくひとりりあり
いぬくくこきおもべきをきくくひとハ何こりやあくんちりたこ文字のもこのまくこ
よりんこ生よりるんりし年代記こ世事こ中こ所こハ形こ長くつばさあるものこり

刀帯

こらハきおりちハもてかしこつこきて乱めく形こりきまりりこらふべし

太平記こ村上彦四郎こ大塔の宮こりりてたりひこを事りきし所こ後醍醐天皇
第二皇子一品式部卿親王ぎりく三人の後こ坐をん自害こりありこ白みりこ名の
ヲ伝りりりかきこも宮のほこがいとてありりりこ形人伝りりみここいここ舟上こを
西しおこくんりりて坐りりをこりりりし未来記こ日本紀こ階朝くりり

猿田彦大神

こされしを遣唐使とここりりこ祈りりのみこりりこひりれりりをこハあやりりこ
きりたひこりりりんりこのこ形の長さるこきこと云りりをこりこべりりよりかこぶ新こりり
とて以の外長鼻こりけりいとりりりし懐賢りりしここりひこやをくくりりる行こ
きりくん時りりりこれりりりりりりくく

赤壁のいくさよ夜昼の国ゝ引ひてのうゝ舟と三里ばかり隔てゝ青龍の
牙旗をたてゝ七人鋒をそろへいとゝ文字あゝうゝと三国志にたとへたるせいくが
まなこのいくばくかくてたてゝ人むもひゝうゝをくめく旗のもじ三ぐくもあるべ
梅 立 室
うゝ光をつらむれよゝれゝ冬花さきうゝひとゝうゝ焼びのもとゝ咲きてゝ
るく流きうつゝどとそいとゝくゝたゝれき花さく躑躅の枝を酌よ三日よのゝうゝ
躑躅
ひゝてゝ伝ゝきゝゝもれゝばむゝうゝきの花さく枇杷のさねとうゝ形ゝうゝ伝ゝ者てゝ
けべてゝきゝゝゝ

せまとだらあうえのきりうりいづくまこうてうつなあのようきむんだ[illegible]
くちぞいやとうあるいれはけだ[illegible]
たまのかぐるとたをかうて形しされだなむ[illegible]
つぎせど。形ゝ石垣のかうようあやしきうくを五尺あるうまして黄形ゝ
へミふろいぞうつぎよのうちこれしたるひきむうしてかさぐ形ゝ
あーよついでぐとうのあーのもご行してくるぐこれおぐくるなうりはこの
たのいとこるゝ下田もろつるが庭の池のやうゝいづるゝ一尺三すづうるて足
よつるうへミのあーしゝつれだきくあるとよゝ偽や師古ゝ早くゝよあれさき
ゝうひぬゝかりをあるくくとのまをふぎるべまかくゝゝ形ゝうえのまゝ偽ゝうる高
きうゝ成ゝし西頭の蛇とうれい巻ぬとうあも偽すう常陸の国やーゝ西とゝ所
ないきて十三とつゝ人と伴ひてうーゝ行の山ないきゝう四尺ぐうすう西頭蛇のき
ふゝとひて方ゝをあげてゝろーゝうまぐゝたくゝ形ーー

巻 ミわつあゝ伝みゝの国掛川とゝ所ゝもゝゝこの由縁ゝゝ成人ゝうゝ西尾源兵衛形ゝいひゝ
伊人の幼いときゝうゝ名時ゝかゝうゝ河原ゝあゝそびゝゝ俄ゝゝつゝゝ河水と
巻 ゝれあ巻上ゝうゝ名童ゝゝ雲ゝもの中ゝゝたくすれてのゝうぬ三星ぐうゝいきて往西あて
ゝうゝうゝいさゝゝ形ゝやゝる事ゝも形ゝうゝうゝ四方ものゝいゝくゝくゝくゝてたぐゝいめの
四ゝゝ伝ゝうゝゝ形ゝ

いゝ年の卯月ぐゝう東の都ゝゝ大ゝるゝあゝもゝうゝる時ゆゝうゝうゝ橋本河
波のゝゝゝ底ゝゝ鞍盟ゝゝゝきゝうゝうゝ馬下ゝゝゝゝゝゝゝゝ脇ゝゝゝゝゝゝゝゝ

だいのばらう成と形人いうる人のきぐらものくつろうひうあるとろくんのち形が
らくてもくものらいうづちのうつくとろらんぶうし
いみ下くく寒うり夕夜こよひいぬくびうてくひてんとそ夕ろうろうようひて
きてもかいらざうりんがおらどやくくて拍子とくこ下あつくるうり形いき夢
あくくるうりるこえいうづくわえりんが引こぐむうもきくぐふかつきてくれぐ
縄のくび有ぐくびきも夜くぐ有えおどひぬくくるもてかくしもえくよもい
たくあけくれがあもてもぎりんとそ夜みちあもくく形ろうくさぶれがても考
あくらぶきまくゆるんとくるとあなきくく形とそうくあるうるをひあどもいき
えくぐ四いをきくくれがいと苦しかくく
きつよい人ようくくものとうあるとつくくあり荒木太助とふ人のうひくろつき
げよつきくろ考きうう物はそれくくうちあぐうてえのくるまぐうりう
うう新古来といひく人のうひうくいぬのせぐよ梳のひうねくるとうびつきうくれ

服部

ばはぐんきあぐひてかげいきうう与つぐううをぐてこのくびいいぬの屋拍子を
梳のとびつきてれがちくはぐうきあぐひてかぎぬのそれうう梳のつきてかなのぐ
ちくくてあうきくううされどそくくいえつうぐ又ふつうくくうくくてのきけり
くつくたあき拍子げかおいあくぐ諏訪つうさのうくがあの中よ考ろきくりのかうる
ものくあえびあうくくあうもぐめく人もあ梳くくくれど後くさをあくぐ又たく
とか考人とあぐ伯事あうあ不あやくくもせぐううひと日坊のと人のむきあの高
いきうう考きのうちくたくくのうくれがきを写
こえくくうみう斗夏てあふとあくくきううれが床引こ形ちてこぐうあるい
くちのかくらあくくぐうれてあうう三人ぐうあうくとぐこれううまぐをい梳く
うう梳あくくおく太や様のぐけくくものくう城国ないきう及ぐぐや
梳ぐくくのうおくく事あう右黒但馬ちがかげのうあの孔をくひうひぐうのとも
のつめをくひつくうくうくうくくぐうちくく形むあくくくひうくくくくくち

享保十三戊申年ノ
水災此年十二月
御茶ノ水通ノ川端
廣ガル

ときくひをうて口の中へ入りいろいろとくるしもまぐるしくひ
りう其馬をばつひようてくるまをうげのうへひろよ又瓜をひろうむく
源右衛門とゆうものきくて若きものかあをつけぬればさくきく
らざりりう人ようのつきてゆきぬるとあきのもものをつけぬればあいやを云
鮎
あゆをとゆをあり関の東よりあきいをゝ言伝のゝゝめ中川と云河へ十六ゝ非
ちのひれれば小へさそうこるりうくちひきゝでゆがでも出のれとなおづりうをう
ちゝさのでるきこ行江戸川の北のわりうんだ何の考るもゝりうをぐき十度と
ふをのこのようひもいそぐあおりう成しがかぞのれとゝきくりてお西方ひそあてひそ
あさすしき事ふ伝きこれとてりよう形り水のいれいづる事のゝでんとひは
ゝるを山のてとてたりき一所のいで水の新あんとのこゝ人ゝさんいとよむうしき
し事の伝るるゝづのるき国よりでめれば必大水あるとるんきまるるゝ人ゝ
れゝ家の前るる小溝すて五すゝるりるるをゝくひとりるぬ五月雨ゝふりたゝな

たれゝ出おつゝ出ゝふて小ゝなでうる事のあんとゝあるるつのあひゝいたと形り
ゝるりう八月ゝ出ゝるりうるゝ霖而九月朔日二日ゝをゝりうゝ若ゝりるふつるの
ゝの時ゝりうりう儀よゝづゝいもゝあく水ゝでゝて未の時ゝりうゝ高さと一丈あるり
ゝて家と橋とゝ元るゝれくゝ人と馬と多く死よりうぬゝてりう斗りうゝ出ちをあ
て明ゝのゝゝゆりとあるれゝりう不合あてりゝ引ゝ出ゝてりりゝ出ゝれたる人の品
川のうゝゝたるゝれりうたるゝ一万八ゝゝるりるゝるるゝんゝるゝたゝゝゝ東の都ゝ
未曾有の事ゝ十六丈ゝゝゝゝ出ゝるゝゝゝゝ

あれ一とせあるれば俄に山に雲起りて水に洞ゝらして風も烈しく吹出て
ありかゝとおもふ間もなく雨といなづまとのみあり雨と風とまじりて
ふるかと思へば

小倉とかやうの所の空に時鮮の十丈ばかり空を飛行事小角の
ある事心大形なる一丈あまりとぞ

いたゞき黒き庄兵衛と云をのこ有りけり其庭に桃の樹あり枝ひさき蛇のとぐろ
のごとくして細きぞ先のうれはのごとくして枝のうへをぶつつけて竿のごくたちの
たちまちにぶりぶりとふきぜふきてぶつちいめんも知らぬまゝけるる事形し
とるんこれ[illegible]形たりの化しるる形ん

尾張の国のあまが上つよさの伸よいきてひのあるいしをろ拾ひてうつし
き右へとてこゝなる地きこれあるのごひて棚に置けるよりこ
をあるあやしきこれば針のさきもてたきしれの元ばかりのあるのあるれ

でやそ角に入くあるれば其後に者ばかりなれば中さむしなどやうく
ゆくとそうらうらう一すれるる蛇のあるてあしあるむしまに行さんに有ける
るんこれもこうやなる

備前の国の芝づのをまらをとゝ行したる人あり国のうち罪なひ多人のてこゝさ
でこれあれあるものそあるてをを殺さんあるるんとさきらぞいくたひ見さ
ばかりでるんをなる人のをさ形人かこれをの罪をんむしとゝ行をこれさあ
るんとておひとりて我い一よるくきてこゝせうひ地きて礼義をしへてちあ形ばさ
おし人のこちあくざればこれあるをばおろしつ罪の大形天地のあひだよい
さくもるしとてつきるひたすんとてるきさけびてちうきれぬ

こまびのの国つ山のくぶくよ山あり山に風あるとてをつる元あり石あるてこちふさぎ
ぬ元のあるい常に風ふきぬるくひあるうちひさき石をるげれのれば元ばけく
吹いづるあるぬればくぬちたま風ふきてきをるうやをたあををふちのれく

享保六辛丑三月四日
傳通院焼失

石のぶの山の[illegible]八ゝ[illegible]権現の堂あり[illegible]ゆゝのてはちひさき元あり[illegible]もはたゝ風ふきいづ

○享保のそばの東の都よりそのひがし家のむらひろる山よ寺あり傳通院と形ん[illegible]ひ
ゝ五月廿五日いぬ時ばかり庭よりいでゝ[illegible]ん[illegible]ば昔よりあるうち大なる燈のいでゝき
たゝみあるき[illegible]たゝよ空よのぼりて大形る星よ成て芒のやうをなりつゝ
かくなん有ゝやうひらうゝ[illegible]この時ばかり大よ風ふきそうして辺ゝ[illegible]ふ[illegible]ゝうひいでゝ
千住のたゝうそでみぬさらのまいよ人地わくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝのうたなをあつめ
たゝが五百ばかりあるようせゝくの正月のおんん赤城の山よ形ゝひもえけりきらら
き十四あとぶうゝぞゝひよあつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

むかし六十六国のたまうてら名をうつしとゞめうちのくうこと
ゝ人ゝとゝろちゝえゝ夜にむけゝとゝしゝやきそちゝそゞんぬ者
ゝいかくゝゝゝ

と坪の後きとゝひ作りなる蛙のぐたかしとゝふちひさきらひるなく形人
いふいきてこれバげふたかしとゝなるうもとゝらるるこのをしめき形ゝなくうう
なるひとちの国あてきとゝぶ山里よ荷ゝなるよ麦ゝうう垣根よりくもしをうう
こゝくとゝと形ゝくあきゝなうゝいときをうゝなる都の人のけらとゝふむしのあくとも
きゝぞとゝいふ虫のあくともゝゝうなるあていきゝじくあゝく垣のうれまそも雪ゝゝ
まとゝれバさと人よりゝ少よ蝸牛のあくとゝゝくゝなる今きてこゝなるゝ虫のあく事を
ゝゝゝざゝいゝゝくゝあらざゝみそあゝゝじゝ今のゝゝくぬるゝゝ
常よるゝぬ虫のゝゝゝバさはよあつまるとゝふをちゝをとゝ瀬をゝゝとゝゝ人の名き
る人の軒ゝてきゝゝゝふのるきゝれバゝゝ人のうちもとゝとゝものゝゝゝよあつゝゝゝゝと
ゝくゝゝゝ
いゝゝゝゝ里ゝきゝれバ血のいゝゝゝゝ本ありさいゝゝとゝふきゝいまゝと猶あゝゝゝゝ木ゝ
ゝてゝゝゝゝ

業の中にたらてゝ和きぬちゞつきぬるまくはうれバうゝ乃ごくそのうゝ化するを行
はしてこゝろくちるゝをまゝとひてたきやたらき人のすゝつくりてあるゝをめ下
よせづさ山田の有るれバさいぞの秋ゝりゝ地ごしゝんをゝつゝるゝちくるゝこそあゝ
ぞけゝあゝちゝりゝかゝりゝの物ゝるゝべゝしゝとゝかゝゝゝゝて

ゝゝ川ゝゝゝゝけゝ人のゝゝゝの身ゝゝゝてつゝるゝゝゝゝゝ形ゝしゝびゝゝゝゝゝゝしゝひ
ゝゝゝゝゝゝゝ桜ゝゝゝゝゝゝゝ

この家屋の前よりは大形の江あり、うしろえは山たかくそびえて北の江いたるまで
ゐるりんばんそこには石よりもすみあしいとぐくあるなどして
ふたりとりどもをのこは中くらくもせぐふまぐうてちぬやをれ浦をも
なもしぐ、夜すめよといふれくかさまうけたるくの箱を土まがたるけう
ちりのたがミとう志づめをいのくしいきのきてをくとみるとくみのれいまちのぐん
てきかをりよりはぐんき雨どひて山のれをよりかはるとくバたのちちびごめよりのつ
むをあぎう右のまして玄的のうちあゝせゆびさしてみのれがちきのおいひう
もはミうとワあなのくくいひぬこーのちびゆりまるよ抓の皮を衣の下よまた
くるが尾のおくりのあつひうさぐうくるさうくたるうぐして是ちんあ
夜しこつあひてあやまう形をもびてうれば色もちづまういうもはぐみる成て
道をがくをあくくめれがあ夜しくく思ひりるよくをそけうとみもひくれば
一うちよりちんをはをひぐれであひてあそぐればうををぐうみれもしうもひ

かき人るくぐまあしハ金あるくくん猶くをくくうてついりくのちくはをのをも
不ひくくよきてををりうをひあつうをくくうをくくるよおれよろうくひあくう
せーをそうくひうれば人をもちよりうくひあくう
東の都よ浅草をを五所あり稲葉内匠頭が家あり家の子よ八郎右衛門とてちうう
ほうく寄ちくとうて心を丹き士あり音ぢくを為めて浅草より南一里半
他の考うをいふ所よいきをうねしうう他の考うの稲荷とてあいやぎあしき
神の社ありりう神主ハ大蔵とうんをりう兵星の人ハ何事よ隠くぐ大蔵が
こーしよりをさぐハぐれば人ら所よくをくるのたうりをを形ぬぐ山をれてこーしのおく
るくぬ事をりりんば神主ハいよくくかーひあくさ八郎うかりるうをと星人
よも神主ををもきたうひをを常よをくくうを五月元日をぐきくをあき
りりよ神主をゆきあひりう道の子をうりんばたちやをうひて待りををて
きをうて夜をれをれをぐくひをこのをくをよひぐうこの中ハやくべきみれよ

ぎて行ぎれと人びと他のもろの神主どもやと口ぎよ形くつを神主と知り
たんでうそをやきくめんちうだくまけうんとてしふをくえがうしもひく
れもこちぐうぼちあしぐんてあまあげてぬあ形口ろしはのん男ひもも
ひとてかぎいき仕う家まうめればつまようきつひをつきてあれようぐうもせ
もびとうこえさぞいみじとのもろうこうひうり降あぐうの人とあつまうう稼て
ゆうしたうしをおどかくい形ぐいひりうあんようふをかどられてうぐ口はしくい報ようそ
たらあつまよ何とぐ有てたくやとくのけとえば如のなたらんいてあるられで
ほまうう志仕してうきあもも恥ようをもて坐ひもうもるというくのしりぬ人く
といまえるもうびのえとうあをうびんゆうもあれとそて口ひあくもがしあうき
ゆうきていうよいまぐのめうやのうもいあ猶せんゆうもあれをつてうちうれで
ふよ形くもも形ゆんてるうぐあえくあやううてきぐふこもうちかうわざはんん
まうらじゆうしたうべとるくくもようつきこぐうりりん人ともあきれていぐももひ

しぐうくくば日比稲荷乃志ワざうもちが形うれかうあしきくつをてぐまも
だうさしはくくきうあうくをくもえうくをゆうりがしてきうつとく
のうぐうまくしば猶せんゆうあうくくいけくくいうくくぐいよくくぐいもいを
きてあこくのうぐふをいうめうをかくけうされまうていうの坐きふと形くまげ
てゆうしたうべこはちいう形う事ばうくもと人をたらぐくこびうれば人をもうう
あつうひて八命ようびうればさあくば命をばたくもあてゆうくくの仕くくせあねふこ
らうけまばゆうぐくしくようぐうよ人をあうくりるあうくしたれば其まくのきううれうう
あくたうう事形うくくし

服部

もうう坂の下西禅庵のうくしはくようもうう人院とゆふ洞家の寺あうりうくくしえの
山うう志きぐくはくいつあうおせうくくはまたうくていうあくとうくくしあうげうれば西之
あう人のかうべくやあう人くてあうくひきうあくきあうくくもあて七日せぐきくくしぐう
ぬう七日のよううねえい豊の中くくどうあうきりうくのうくよば外くの信解ともも

とゝまりてゐたりしかれば院主いえも祈ざれば終をえずしぬ高野山
うさん寺い同宮さきうの人院がゆまふるばらふときてこぶゝひつさのかりきゝ
たぶしていざうんとて往詣堂ゆとゝるひてれがごくそいたりのたくそぎまうの
うゝよあゝしを夜ものゆもちいでちんるき事をてれば夢をこみつさうるうるうんとて
石のうえよきけであゝだえてやゝくぶきてもてうそれうう又たうり形うゝ

きつ狐人ゆつくものさむゝなたぬきもまゝたくさうゆさゝと人のいひそづとゝだ
も狐ゆるがきてくつ狐たぬきいきゝくとうゆされ人のつきたるうんといひう
師古ゞたうとゝ左つ奉政がいひて恥ゆきをそづれば恥ゆゝと盃ゆいひう今
の人いゆうゝむで恥あゝをぶちざれば恥ゆきうるんあ形う

伊国寺とて恋うゞゆ寺ありうう小僧ゆ夏人さつとそゝとゆのゝけるうがを
うう誹諧のゝく字い鼈とうけてべつの字の高くうきそたゞとゆ高くざうと
いうべゝとゆひてこひぬゞゆうが師匠い俳諧このむゝきたれが俳ういゝ文なかきて

えさせんとてそこ形うこゝぶうゝうとうる

誹諧　飯納字鼈

それ鼈い亀のたぐひ甲ゆもん形くゆうゆ毛ゆくかゝしらい梵をうゝも
いつゝ夏ゝゝゆあゝをちぶもればくさされて蓮葉をうつむきゆうゞぶくゝび
をのゞれば毛ゆく後き蛇前家ゆ仏ゆうゆうゆあゝせていめゝて小形のいゝひけ
形うゝといゝゆゝ一定永のゝ後いゆべゞゞゝとよゞゝしゞゞゞうのゝをゞうゝゝとゆえ
ゝゝゆうれゝゆも意のゆあゝてゆゆゝゝゝしれ五徳のうゝゝのけゝゝゆゆゝまゝて
ゆれが甲らを鍋ゆもちいられゆうの皿ゆ祈ぎゝくゝとゝきゝうゆれゝていゆう
このひゆゆゆゆゆゆゞゞゝゝゝとのゝゝゝゞゞゝゝゝ

まことに人もいとをかしくきこゆ髪の形ぢき毛唐人どもは鬼魅のごとしとぞいふ
ものはひするまたとへばうちとけ物しくなれ河伯ようて人の風
めづらしきことなれども人をあざけるはうぞよふつうぞはげえ伯れども
ちづつよ命あるくは形ぞうる成仲もせざるべきこともうるくみるものしるべきなり
あなかしこ〳〵
いとあやしげよ龍蛇のうしろいきわひをしてうきてあくるうよえしやあざ
ま〳〵やうるぞ手うなづき押しくてきていきけうぶをうしかるし
ちうごんあみ坊やく仏〳〵人い林だうるうん春さい中納言まうつるふ卿この人
ふちいとひきもさはうるればさとあるうん仏るのいとこよ春つあさ井ま
ともあさうれさうもいぶくもあるぞてきあつめうめうとせ八ようきてあて三十
八うてこゆうるうりあうひうてうとせぶうようけうとの事纂とて百五十巻分類
国史綱とて百五十巻ものうり今集解考日本紀考定儀式考をしてべて

五百余巻あうるうきふみ文苑英華左傳韓文柳文賦類など千百五よ
うるうけうが詩文八十餘巻あり多人のわざとも坊もれぞ仏るうし
仏人とその多ひるといぬや神こまるるとそのの多ひるといぬやそや
まんえうもうのうこいうん人の子ふうこあるく子ちの古人がわふみの多き唐こ
をくめるふる人ようれあらめやとうぶをいうくるれしあるあやとおむべいとて
人をとるうるうしま道飛ふとかるるをそぶめうけぞ仏るるのちいおそ
しく後生可怖とるいひるん事今こを毛ろ仏れころうこげよかくうそおむ
べりんせんかくあるうしぶてんおもかる事い形くけいちるうしが考ふをそひ及で
ざるうるとてこよおるうめでき
うお中まあるとうるとあう形さぞうるうるくれひとのあるひとおとのそひのこひ
ぬと坊人ば廿人ざとふ国の人をぴんとふとくいてるおいくのぞ数方里の

うなゐ子へびそたるさうひろれば[illegible]日の本のうちおとこづのくらものい所くさ為くさ八丈とふ島の人いとのきくひびうくてくまのあてうほてい
ミちの国大さくやとふ山里の人は母わ孫とふものとつぶくきうてもぎがくくて
くふむ[illegible]ちの民い為くのき草のいとうて山をとあづきてひえをてくふ中
がつぐとふ所よいきてうれば[illegible]をとこをんなあつまりゆげくなる形くひきげ
まて高の中まうくくさ三てハもあ形くをうくふむぎとひえとあづうを
水草くくんくわしばとて草のもの[illegible]ひざと五すびうがきうてるとかきいひ
くべ身のあくるといひうう志為の民ハあをきくふきよをこのていこあくさで
三里半きてあとのくふミの国ふがうどくくる山あひよひをくひものよそう里
あうつさうミたよ志てミうかくとぎうよあつせやぜくくふたミありきくこの
うの国ようあくけのしを新かしてひえうもいひやけくくふ所ありたひやきよ形ん
いひうを作ちをたくあありいしをたくあう志ぬ国ハいの成ものをくひいう形とのの

たくくくえくくにのいうひおとくくくくよあるう

正徳のこんうミつミちあくけの人十三人つくの舟よのう東の都へ見ゆとていやちよあ
ひて[illegible]ハ形くくくもあき国ハいきて十三年くくくくくハ丈とゆ島きくうくを東の都
へ[illegible]てこらやのひくう其人のひあ[illegible]疫風よあひてたびるれね形れてようう
ちびうう見てとあう国ハいきぬいくねとなりれが人も形くくくハ有あうなきいあ
ミてけびとあのあくびたくくくくハやちひさくくくうハやきやくくて志為き島
のミ有くう草もくくよもれねくく人もはそくくくて舟ハくれくれが功うくん便もあくくあ
島よのあくて元の中よあのくくくくくくくくくたくくくくくくくくく

ことうてくひものふしつひとせぎろうるに人ぬしとも
ひとも形ぎやうれきぬあるをりをとうてうれどうのうぬひとせよふと
くいうりあらしめをくとうふしてやむ人のあれがうくつれてき草とうあ
ゆていをとうのあぶうをぎてうるしびのうちうしてようひうけてぞいづうる舟よ入
たうりうるべあいのうたれば舟もとうとうしそもてあてうひうる坊わくの羊
月るあうよりやくうふうたぐうのうれうかをひぎかはぢ行のるご行しうく
鳥のもと云ふしてるうひとをうく舟の沖ながうれくきてうりるあうりてうれを
穴の中うえもいれる人のあれば坊ぢ行きてふぐんとせーといづちき向せるとうを
日の本うきしうとうをびもかうひれいうりあいてたぐるきよ形ふぬ一人いたき
ぎうう人うてあてうが沖りきてうるうるきけりいうりかうう島よりもむんと四人ぬ
うぐくの車うてうりるかくていて形人うう舟のうれぬうをあれ海ぢうようびいそ
国よ沖りるんよりぎうりるうば浪のうよう流ううんいのうちあうば沖りもうんとてを

たうとうるるいつういつのいつよふしーきうよむきそのうぬいつよとうふ夜むるうよ
不のあううのえうーを云るべよのうて八丈の島よつきぬとるんうを島ゝ四方三里バ
うり有りうとまうーりうをうまいのうかぎうよりたまひて云うよくゆーしうふ
りりのちようぶれうきーいづうるの人うやいうーたーうふ形えぞうであ風うを形
れーー人いたりひ五両もうりうり
人とうりこのうるくひもをあり東の都よあり十人の犬をうぶ人あり一日もくふぶれバ
四ちうかうぐんるうればやーーうる皮をうそあんもをかーてくひりう大久保八右衛門と云
ーー人の家のつぶりいたぞこのやをとうふものをさううてかるうさたるうさ毛もくうく
りうよりあうてうりうぬうれもひと日とうもうらぶれば心ちあーーとるん松平大進う
酒のむを烟草をひで草の形うりみりをうをうんりうのうぬ日向の金剛寺
さうぶうりる立人とうをうりるりうーーはたうかうーーとうふものをとうをて一年ニ解
八斗ひひりる高うりんつうをハ人とのうりるんのぞきそ坊のれたぐをうりーー

くさけ九十六樽のみくりいときるきよ紀歳ぶ人あつつちをぶあるらけ
をふあるミ形ゑまふうであるく人
かとうぞに二帝といふをあこ有りうきく形きゑあるるるらひり祢ぞきのあ
されてるをけごめよかーらうをずでくひつくーぬえるとうき形ぞくあーとをひぬ
もハかあしもて吻をふミうてきると鳴りをつくくひきうてミるくひりう
百ひりむーとふ虫の七八ミぶうあうてるうあーきいき吹いぶんとくひりう
口の中へふきーいとあつくてゆくゆよ形人有てて地ぞるきてて吹吉のくゆう成て
みりりにまるをバのこ南りたるとゆ出蓑しくるわ祢とう形くひりつまいるくく
あるまるくくーゆあるせあ形れをバのわひるる人やあ世家よねるーとるす
へちいでれば今うるきくいどないきとてるめぬ
本卿よさくせう寺とふてるあり十四ゆ成りるるハ乃有りる巻のこ行ゆてこまるう
てひる祢ーたるといのみぬせるも地きぞをどかくいるどいぎくるきぞふ出とみ

こーるうるたぞこのゆまめるて地ぞるるうんとてふ僧どもがそそめるりるえげくくーこうす
地どるきさあて時ゆ考るるるーとてをどるたりてるき南ぞゆとこ形るこひあるふ
いーどく苦ーこりれば時るくぬぞあぬぞどくあどくとてあるくくどもゆふの中へるれ人れ
ぞ腥るくこぞるこぬそたどるきこゆるるきけどいるみあくくどんくゆまぞそそいき
たゆこ斗ゆるりてたるれゆーたるゆたどれゆ腥たどくくゆきもあどくどうみるとき
どれて二月どるるくくいえれれどるくあーいかどるて元ありうぞるるるる
木い形づまぬとゆこ流どるるハうる南ぞるるうーいかどるて松の養歯を水ゆ出ゆせバ形づき
ぬどんハ形きき杉の木の久ーくうるれるるこゆこ二ー人の有ーー松ハ形づまつ松ゆ形あめ
松ゆ鶴のそめるこ形どくく常の事こ文集の鶴苦雑詩ゆと爾章伉儷泥中鬪
吾整羽儀松上棲と後るる土伝日記ゆとるるくせバ松のうれぞゆるゆかつくるも
あるるむのーハ鶴のこるうれきとそそけるるやあくん今ハきゆぬるを形ーー松ゆそむ
いこるとゆ形こるこハ何ーるくゆこそてゆぬれバゆるるるがむるあも鶴あーら

ゑとすびいかとういちとせどうぞんとうけさし

人はあり〳〵はそまもはあり有馬兵庫殿いうかを師る大小保いせのうみかこもと
はそちもてゆけいのもけいへをはそるもうあるそんいあそびを師る茶屋
とものあるいうへるをはそるあるもうあるものうをゆきけう道まひあるあう
はれいこ間だかりとびさうてちまけかくおれい世主殿殿をあるぞや
とあしぶをしていうけうへるいきうをあしはばはいきうをさてもきものをて
きうへるう殿とわ殿あるりしいひつまげまどひうう
山川の石のとざあるもむぎとうとうとうのあるを完さどうとてはさし入て引ぢ
ぬ関口とうい江戸川のう殿うのみくきしい石をたうをう秋のう待あうぬれば
水うをまううてむるぎの殿りくあつまうりうを人を膳いうひうて完さどうしいうう
赤城よ家ぬしりうみをうう殿ひの刀衣いきしよはきつう久さうえさどうし作りけ
まふ、とう出さうきをちいきうものうしいもつしあうて引いつ五尺余

て殿りはえちるうりりう人とるうう蛇をはそれうりればお殿やとてうしアぬ衣も
刀とう殿けとてうあげまどくどうふさ花をゆひつけれびわうまくを追きぬあ
うをどうるうてあのをバぶうしくをけうう殿うをもうもうでうをけびつゝよは
でふもア人くへえ人ぬうをうしぬ人を殿うし
江戸川いめじえの山のふもとうりそて十四五町ばううあるしてひんがしを流きぬ
北南のうしをちあうて人々のの家をちをきうを麦のゆふべ久三のもれくるの
ち目白の山をのぐりてうれば川をどうり虹のあるをうをちをのいつくのあど
といちをるしふじのいでる所うんとうをよむちけて山をどういきけりいをそど
もばうえでいをうるてひがしはるてふちていうをぬうれば虹の久い西のうをへし
たいをんがしをうをあうふをでをうるあしをのふどいを西をたち久のふしいを東を
うつとうふをあるしでふじいづうをそども日をむきていうをぬうをうをうしバ
世うをうをうればをひいを西うを東をうし暁いを東うを西をうをん

開口は水神の石しんあるよしなる河ぎしにまさらに草の根ひろがりてるるを
せ長月ばかりまでは水の有りて夏ミ涼しかりゆゑに何ぐさとも
なりなまこもの中にまぎれてさらぐまるこかりまれば此ごえ
てうれいびきぐさとなづけるもしるしんひとをうろうろ迷ひて
ゆゑ陸奥保原里渡辺与惣
ミちのくにかりのさとにつるべうちにて人ありて五間ばかりまけて十四五
の人にてとおひぬるをとてふきかりあるよ西方でいとすくなくかりけり
祈ふくつばかりよいとあるとりの羽音にてきこえとびきたりてせのうへにゐる
きう柱もたがきもありをごきてなねのようこーやうよんさりて各めをあゝせ
てあるよりどもあるく又大形の羽音にて南の方へとびゆきけりとぶきゆゑにさり
なるよゝのたりあるゝ形よりゆゆぎりにてひとりなれば中のうへきるとるミつの
ミとかしにて者のあとをなかなそいかりこんなりて二丈あまり有りて飛乃

鳥不二尅

地震

地

跡に大形のうちきるとばかり有りて北よりひとり南へとうばく有りるとうんたる形鳥
なるゝ人
米澤の里にて夏のこれ月のありなりる夜人あつまりてものがたりなどしす
ばりりこれ星のあるゝしもちゝひろ丞ゝきりとりてがんももて出
しのミぬうちに一のもちひろ走中にとびいきぬ石きりとるとびりれば人ゝまくゞせ
してあるよりひねりあるゝしのかるとてもちゝひろとびいぬをあるーとてこよ
ちゝ人ふなとうふこのゝありとて大なるひきがえるの口をりてうばくれればもちい
ひゝミ形ほゝゝぬ東の都に大豚太たまつとゝふ人の一のけきとくさりう牧の場く
あつまりて花ふとゆのりてひきがえるのこひいぢ口をりてかゝるとよ
牧の母りゝちばりて口さゝゝちくうれば一口よりのとはーりりけるりはひきい
のつりれば名よりてりしとある人のいひて
蜂のちしなるよゝ牛つゝものかきりてそればいたまぢ牛ハ蜂と制もるものゝやを

らん大野宇右衛門と云る人の庭へうせたる蜘蛛の大形なるがあげまどひていとできてかりそめやはりすをとれば有きそちの三ばうもとを引ぬかして
たつときこゆる庭の草の根ひくまぐるしくぐる葉のわたく巻てあり蜘蛛
蜂
蜂ハ屋ゞてまけこんものとの中よりかれ人をまちの追つきて葉おしよきしたれど
たちまち根ちまえびて去ぬのこゝろもとなりて地ちまりやありてくもい葉の中
ようにてゝかげいきりいものえちよ毒あゝ事を去りまりやあん

ちひさき虫とゝども人をあるなふをあるさき金八といふ人の庭へ一尺ばかりなる
蛇のいでゝまとねひをれで草の中へかげ入りて金八が桂をようかくして月うち形ゞあて
あるうり又ゝおへゝ乃いでゝかりらさしあげて金八をまもるひわるをいうぶこそん
ときゝをうち口をうちひさきいしふきいぶしたるがかくるゝるこらを三ぶばうき
いれて蛇ゝをのあるゝゝぶでるうり

林常隆とゝひいぶき形る美濃国ゝよりふるう村とゝふ所あり文字ゝハ十村とゝけ
世ゝ名ゝ行ゝやとゝふをゝるゝでとゝゝへでこゝもゝでゝよあるゝゝぶでゝをゝセゝゝ名ゝるゝるゝ名ゝぶけ
ものるゝ杖ゝ知ゝを中ゝるゝふとゝてゝふゝるゝ養老のゝもゝゝるゝをゝセゝつゝ名ゝよゝ名ゝぶけ
ゝゝをゝゝゝゝるゝもゝゝ知ゝゝゝゝゝゝゝたゝゝゝいきゝて長洲長老ゝ仕ゝれゝをゝかゝゝてゝひ
ゝるゝをゝるゝゝ国ゝのゝゝゝゝゝの名ゝのゝもゝゝの事ゝゝゝ作ゝゝてゝゝゝのゝ十村ゝゝつゝ名ゝるゝゝを
名ゝぶけゝるゝゝゝ首ある禅師のゝかゝゝゝゝゝゝゝかゝゝゝたゝゝゝゝゝゝゝ

ぞと人どもまうむかふ人のふ作り名侍後といひし小僧や坊ぐえ[illegible]ふと
向ふ[illegible]れてよくく作れが面ざしの侍後よ似てあり面を侍後をばまとれさ
かいぞよくとふれが兄者よてもおしおとろと人で祝うら名ぐうてあく
ふぐでも形き事なぐいたぐ今むーしの人見あるうせくいえぬも罪ふうく
作れいまをまてりあれこそりよ侍後がぐけてまさあふ十八の年ぐで男
まて東叡山ものぐりあうしる成侍後とおうし作うし十八のとうしもの根の
きてうのうぬくいたくてうそ業よをつき作うしまぐせくをんるまるう作うぬ
せんくしも形くおよまきれなおかぐれで都の内よをるべくもおくれば祝うく
まよおうひまぐべきゆうの有名と尋祝きてう酒う作人の住まと城くよをとて
まさあうぬいうあうこぐせのとぐまようていき形ぐうをんるよい成く作うん今を
ふとまようそよきてあーぬあひぐうればくてふとまくくとるきけうあれな
と坊そ作ーしくも作うーしぐろかーく人よもかてぐれとそのつぐでよまうし

ぐぬかくたのーしと作うあるかとまめやふくてうきあ作よあるよいかく事もをうん
酒のまてうきくーしぶれとめどうのをどうる成をどうのめどうまるはあ形ぐうち
あやーむぐうぐたまくある事と男の女まるくーしも事

寛永男あるく六郷利根川を渡さうつーるくるる女
六郷不在也迄郡内ていかりて

八月十九日　佐々木知氏

堤文五郎殺

一春中郡三本木村七右衛門娘男と名乗り武士を当て後ろ影
地蔵堂向遠事に付て女根を人並只高き六尺中に富士山
なし小便右之方に毛黒十七八之に不人並に有和歌山九
川一夕を乗け又くびをつり拍子に成しの和其後毎夜人に助来之
白鷺が太神宮一月参仕男と成度願を年新前二月比より彼高き完

ふるれば通れり男根とうり金玉中こ多くく毒有るよう中男
みてか不毒石目安稽由五月元服等しに

○土屋但馬守土浦の城よりてからきいるぬこれ雨風いとげしくいとぐ
くらかりる夜度のたうもくのうちそきこと多くはして毒ようもあり
りり人してもべども形もえぞもあく毒といやまざりり家の子国そのをけそ
ちちりりよたへ形ときふくひありりるをめしてあれうてと切わせらればかくらをきあ
いぶしてうちさぶらひ人をいるびりりを考ひて切わせらればもとりえぬものあ
たんえづもえいあるぞ切わせらればけりうあつんとて十七のつとり直して
を形ちたりられば壮の面をりる人をいだしてをられどもをこて物も形しに夜あけ
てをりられば竹のをそりおこてりうてをひあひをとうちきりりいをじき上をと
とてものたまふりる

○戸田家女正入道ぜりうんいふりついものをあが切わらのいとき形りりる時ぜりうん

我祖父 幼

の前をて物語しりるふ近ひいせの中のはどりぬるこをちりうぬ事りれむりし天が
下をづまりてのち家のをさのいでく家の子を某と云若者のをぶらよ世ひたが祝づ
をりの太刀ををりをせりる若者の心をとしてををきあるふをばあるとをいひりりげる
わりきものりりくも四ぐ付くをとをりりしいだしてをければりりいをぎきりあぐりきせ
なり其頃いたがねふりりなりる形りれば形ぐくあのをものなりひりりをいる形
あるもべも皆ちぐひづりをきき付くをを形のをおをりりをりをりをとる
をのをりりるひしをれりりいもりをせりりりりぬまりく今の地ぐ有ををぜりりんをを
ぐをきりりる付をべしに

○いれはの切わぢの日りりる切ひ慶長の前りるべしをものを後切をんぐりりををて
たぐをとりあものりをりりをきをりるとりんものりるくてりぐりをりあを上天ぐりる
形りをのりをだへ草ひ移りいれをををりりを毒もりりもりびりるりをりを
あるりへ付りりるりきをぐえをりりるりのりりをはひいれ炭のひいけてぐ

まろうんがまく形くかしこき事は人とかもあんとうと形ん

鉄炮とふも天正の比はんどうとじめてきたりけるとや太つの左右つとひ
し人の世はんどいとくかしこき国さんどこせうつものたくさてそしめて石形
ちてんよちでめ男ふう出たたくて西とせ出ぐ形きヤせんと出ぐつの形ひ
ふう豆形き心あつうひるへしー

かとうぐ野口孤山とぬてのとるひてくさまとてうれものるとふ
いきけ屋風へぐてくいと山とあつまぐちとんぐ形よるまひるとうけ
て野口がとう形く押りたぐるる神ふうてくうるを地ふまるとち
かくてひてつとあてたてるぐるるとのぐちる伏いひる

東路と人と元花をき閑るれがたく孫ちるまるあけておちうう
いう山とちびしげるふちく伏くく

赤夏の花は稲なかくぬとまれくあれて宿よ無風ぐちく

かくいひつまくひうれば野口は鼻のるどをあかして作りるを孤山はちまで
ふくくちもせぐくうあるくてうんあうるるきうえんべのつひえたくるくと野
口がいひうるを人とぶくまあげられてはたくまふるまやあるぐきとてきくれば
きばせんくあくてねとうう

ある人のちるわざも形くて作りるとよ中ようまれてば人るくくるくんくとを赤
いるんんぐでのは何すく事もあくく明ー者ーてあてる月日をむあーくはてるう
こそと人のいてうんぐさるのてまひそひとひも走づるる事さまーいぐつあ
てはきううれが走がーあきいーて地きいづれがふはなどそるまとたうづせよ
など人かいへば走がーてうづーて走などるぐ先ゆううそや朔ぐれるそく
のぬくひいて茶などうちのくてかれうれもれば言まくふとるををろーぬ
眠すんとてうふーて胡蝶の夢と絵ばるふうく言いひめせくぐーぬ又
うちくひてくのをうはる男かるふゆぐんひもくひつ入相のくのあ言

ちよをようぶる事も世わきうちよりひもを結めんむいも祈ぬんあるよゆゞう
まりうハヤ（のぞんいるぞるるなんが何をるひまも形しうれもうよ中のあら
ひとゆもいぞいちうりをゞしゞがんもとうさふふうゆれてんをろうと世をゆ
あをうめてをかをうきよをもきぞてをうしをとをひたうぞとて祈ゞう
ぬをんもちう一生いをうろんかゝ

尾 昏 三 五 座 六 懲 隨 緣 真 如

ちうよをしていうくごろんろくゞゞ風をゞるゞをゞをんをんをんかゝをの浪
ゞ事をちうよゆゆもしゞゞ草うきあつめうゞ伯うきよ物ゞうをれゞゞて富意艸

百 年 前 喻 氏

をゞ名づけ伯ゞゞり思へゞゞもゞとせのさきゆゝゞが我名めををゞをうゞけ

可 昏

も猶かゝべいをの伯れど紙のつをゞれゞ筆をとゞめ伯ゞゞか

喻嘉言カ寓意艸ノ序崇禎癸未ハ寛永廿年ナリ寛保二年壬戌マテ百年ナレバ其頃ト知ルベシ

右寓意艸一卷文政戊子槐月備忘

定興